

CAVOK V 2018月年航海日誌 NO2

(6月20日(水) Paros～8月26日(日) Coruf)

松崎義邦氏メール(9月2日)

皆様に

エーゲ海に入り順調に航海を続けています。今年も先輩、後輩、友人、そして孫と先客万来で賑やかな航海になっています。

エーゲ海の中央部は7月になるとメルテメと云う強い北風の季節風が吹き出します。その風が吹き出す前にエーゲ海北部の北スポラデス諸島に到着の計画していましたが北風が予想より早く吹き出しそうなので CAVOK5 で行くのは諦めて、地中海の真中になるキクラデス諸島のパロス島に艇を繋留して空路でテッサロニキに行きました。当初からご一緒だった岩崎夫妻はここから帰国され、我々は昨年お友達になって今冬に我が家にも来たことのあるギリシャ人宅にお邪魔しました。大歓迎でお母様のギリシャ料理を堪能させて頂いたり、一度は見てみたいと思っていた奇岩の上に修道院が建つメテオラも案内して頂きました。

パロス島では約2週間滞在して島での、のんびり生活を楽しみました。7月中旬にはヨット部の後輩4名がイタリアでのAクラスデインギー国際大会参加のついでにアテネで CAVOK5 に乗艇してサロニコス海域で3泊4日のクルージングを一緒に楽しんだりしました。

その後悦子はいったん帰国して10日ほどしてから中学1年生の孫と正田さんと一緒にアテネに戻ってきて、クルージングを再開しました。アテネ近郊のサラミスには20日近い長期滞在になりましたが昨年知り合ったポールさんにお世話になったり、何十年振りかのスキューバダイビングを楽しんだりしました。孫とのクルージングはペロポネソス半島を時計回りで廻りましたが、海底まできれいに見えるクリスタルウオターの泊地や古代から中世までの遺跡があちこちにあり、そして天候も安定している良い航路でした。

オリンピア遺跡では2020年東京オリンピックの聖火の採火をするヘラ神殿も覗いて来ました。

イオニア海に入ると綺麗な海岸のある島々が点在していて、観光船に乗ったり綺麗なビーチで泳いだり車で島内観光したり楽しみました。

エリクーサ島では友人のサンドロさんのホテルでお世話になり、悦子はお寿司を握ってホテルのお客さんに振る舞ったりもしました。

コルフ島からは孫を正田さんに引率してもらい二人は帰国しました。暫く悦子と二人の航海を楽しみたいと思っています。

後半は暫くエリクーサ島周辺を周遊したりアルバニアによって美味しい魚を食べたりした後、南イタリア半島からシシリー島に抜け、サルデーニャ島に CAVOK5 を越冬させて 10 月末帰国予定をしています。

まだまだ夏真っ盛りのこちらの夏を楽しみたいと思っております。

ギリシャ Erikoussa 島にて
松崎義邦

写真

1. メテオラ
2. コスタス宅にて
3. 三田 A 級クラブメンバーと
4. アテネ・アクロポリスにて
5. ドコス島でのパーティー
6. 6 年振りの出会
7. ペロポネソス半島エラフォニイソスの錨泊地
8. イタキ島ピガーダ
9. ケファロニア島エフミイア港
10. ミルトスピーチ
11. 隣艇の友達
12. オトーニ島カリプソ

2018年 CAVOKV 航海日誌(2)

6月20日(水) Paros 快晴 北5~10ノット

ナウサの湾は数か所良い錨泊地があり風の向きによって錨泊艇は錨泊地を選んでいる。

南風が強かった3,4日前は多い時は20隻近く湾の南の錨泊地に錨泊していたが北風になると今度は北側に移動して風と波を避けている。いずれも底は固い砂の水深も浅い絶好の錨泊地だ。特に北側の Ormos Ay Ioannou の錨泊地は Imary のパイロットブックでも避難地としてどんな風にも耐えられる最高の安全な泊地として A をつけている。

其処の海岸線が海水浴場になっていて Paros parc と呼ばれている。其処までナウサの港から渡しが出ていますのでそれに乗っていく予定だったが若干風が強かったので明日に延期

して今日ものんびり過ごすことにした。

今年付け替えた流し台の蛇口の取り付けがガタガタするので蛇口と台の間に板を入れてしっかり閉まるように修理する。又航海日誌の整理をしたりして過ごす。

何時もの様に夕方泳ぐ。毎日 15 分弱の泳ぎだが毎日の良い運動だと思っている。

このマリーナのシャワーが使えるようになったので浴びるが水しか出なかった。

夕食はスズキを昨日の魚屋さんで買ってグリルで頂く。胡瓜とトマトにオニオンドレッシングのサラダ、ラタトゥイユと一緒に頂く。スズキが新鮮なので美味しかった。

6月21日(木) Paros 快晴 北微風

風も凜ぎ海水浴日和になったので渡しでパロス・パークのビーチに行く。

砂浜で遠浅の水の綺麗なビーチだ。ビーチパラソルとビーチベットを借りる。

子供を遊ぶのに絶好なビーチなので家族連れも多かった。ギリシャの夏休みは 6 月からだそうだ。

お昼をビーチにあるレストランで食べる。サラダ、ポークサンド、サーディンサンドをビールで食べるがサーディンが良い味だった。

同じテーブルに座っていたフランス人とスウェーデン人の若いカップルが日本に行ったことがあるという事でお話する。日本の文化が好きだそうだ。

泳いだり本を読んだり昼寝をしたりして過ごし、16 時頃の渡しでマリーナに戻る。渡しでお昼一緒にした若いカップルと一緒にいたので CAVOK5 に誘う。とっても感じの良いフランス人の女性 Peer さんとスウェーデン人の男性 Juliette さんのカップルだった。

お話を聞くと我々以上に東南アジアを旅行している。

明日からテッサロニキの友人宅に行くので 2 か月間散髪をしていなかったので散髪する。15€だった。

夕食は今晚が岩崎夫妻と最後の晩餐会になるという事で外食をする。今晚はお肉という事でよく行くシーフード料理の“Mare Nostrum” の姉妹店に行くがクローズで別のレストランを探して入る。

サラダ二品とポークヒレスターキ、ビーフステーキそしてピザ・マルガリータをパロスの赤ワインで食べる。ポークは柔らかく美味しかったがビーフの方は焼きすぎでばさばさ気味だった。

サラダもピザもイタリア風味で美味しかった。お食後はエスプレッソ、カプチーノを頂いた。最後の夕食という事で岩崎さんがご馳走してくれた。

艇に戻りオンザロックを飲みながらおしゃべりをして就寝する。

6月22日(金) Paros 快晴 微風 (Thessaronili に行く)

今日岩崎夫妻がテッサロニキ経由で帰国する。我々も一緒に 15:30 発の飛行機でテッサ

ロニキに行く。

午前中岩崎夫妻は荷造りをする。タクシーを 13:40 に頼む。

テッサロニキでは今年の冬に日本に来て、三田 A 級クラブの伊東旅行に参加させて頂たり、我が家に宿泊したコスタさん宅で 2 泊ほどさせて頂きメテオラ観光をする予定だ。

オリンピア航空の双発ターボプロップ機で日本でも使われているデハビラント社の DHC-8-400 で定刻に出発した。

途中エーゲ海の多数の島を見ながら 1 時間のフライトでテッサロニキ・マケドニア空港に着くとコスタさん家族が迎えに来てくれていた。

岩崎夫妻も一緒なので 2 台の車で来てくれ、岩崎さんが出発する 21:35 までの間テッサロニキを案内してくれる。

テッサロニキはローマ帝国、東ローマ帝国（ビザンチン）の時代の建築物が多く残りそれらを対象に全体が世界遺産になっている。紀元前 315 年マケドニアの将軍カッサンドロスによって造られ、古代ローマ時代は中東方面へ向かう幹線道路の宿場町として栄え、紀元前 168 年に古代ローマがこの地を征服した後マケドニア地方の首都となった。その後ローマ帝国、東ローマ帝国、オスマントルコと歴史の変遷があった。

主だった建造物をコスタさんが案内してくれた。

ホワイト・タワーは 15 世紀ヴェネチア人によって建造され 18, 9 世紀トルコ時代は牢獄に使われ大量殺戮があり“血塗られた塔”という別名もある。

町の真ん中にあるガレリウスの凱旋門は 303 年にローマ軍とササン朝ペルシャ軍の戦いでローマ軍の勝利を祝って建てられた。

ロトンドはローマ帝国東方正帝ガレリウスの霊廟として建てられたが使われることなくキリスト教教会に転換オスマン帝国時代はモスクとしてミモレットも建造され使用されていた。建物の直径は 24.5m で柱はない。厚さ 6 m の壁で円形型に囲まれこの地震にも耐えてきたという。

城壁によって都市は守られていたがその城壁の跡が町中に点在していて歴史を感じる。

テルマイコス湾と町を見渡せる丘の上の城壁からのパノラマは素晴らしい。又テルマイコス湾沿いに広い遊歩道が長くつながっている。

近くにはおしゃれなバーやコーヒーショップが並び素敵なおウオターフロントになっていた。ここでコーヒーとケーキをご馳走になり岩崎夫妻をマケドニア空港まで送る。

岩崎夫妻とは約 1 か月一緒に航海したがさぞかしお疲れかと思う。乗船中色々とお気遣いも頂き感謝している。

送った後コスタス宅に行き、奥さんのリアさんのお母様の手料理を頂く。ギリシャ家庭料理でスープから始まりグreekサラダ、レンズ豆サラダ、ゴートチーズやシープチーズも入ったチーズの盛り合わせ、そしてほうれん草のパイとミンチミートパイそしてインゲンの煮込み料理を自家製ブレッドで頂く。彼の家の周りは広大な農地でその丘の上の広い敷地の中に建っている。



家のテラスで心地よい風を浴びながらお嬢さんのマレーナさんも一緒に食事を楽しんだ。

マレーナさんは7歳で、昨年イオニア海エリクーサで私の孫の颯君と遊んだお嬢さんだ。冬に日本にきて、颯君の妹葵さんとデイズニーランドで遊んだ仲でもある

私に大変懐いてくれ利発でかわいいお嬢さんだ。

最後にチポロを頂いて2階の広いベッドルームを使わせて頂き疲れた体をゆっくり休める。

6月23日(土) Thessaloniki 曇り時折雨

今日はメテオラ観光に連れて行って頂く。朝コーヒーとビスケットで朝食を済ませて9時に出発する。途中アレキサンダー大王の父親の紀元前336年に暗殺されたフリッポス2世の墓とされているアイガイ(ヴェルギナ)の考古遺跡を訪ねる。ここも世界遺産だ。墳墓は博物館になっていて美しいモザイク画や黄金の輝きの副葬品が展示されている。特にフリッポス2世の骨箱と言われている黄金の箱は見応えがあった。

日本の古墳の様に盛られた丘は綺麗に芝生が植えられ周りは緑の多い公園になっていた。お昼はそこでお弁当のパイを頂く。

道中は農業地帯でエーゲ海の島々と違い実り多い地域となっている。途中峠越えもあり

冬には雪が積もるそうだ。コスタは冬にはスタッドレスタイヤを装着するそうだ。

メテオラまではテッサロニキから約 3 時間位だが途中ヴェルギナに寄ったのでメテオラの到着は 15 時になった。

見事な景観だ。其々単独に高いところでは 500m にはなるという奇岩の上に立つ修道院を眺める。昔からこの眺めを見るのが夢だったが現実に見て感動する。



コスタさんがガイドのバスを手配してくれそれに乗って約 4 時間かけて観光する。14 世紀には 24 の修道院があったが現在活動中の修道院は 6 つだそうだ。

20 世紀初頭までは岩山に階段も梯子もなく、下界からの人間や生活物資を運ぶ手段は、滑車につるした綱袋だけだったそうだ。大変厳しい環境の中で修道僧は生活をしていた。

メテオラ観光が終わったのが 20 時過ぎになる。マレーナちゃんがお腹を空かしたので軽く軽食を食べてから、3 時間かけてテッサロニキに帰る。到着が 24 時になるがリアのお母様が夕食を作っておいてくれる。暖かいスープが美味しくお腹に染みた。

6 月 24 日（日）Thessaloniki～Paros

昨晩は遅かったので 8 時過ぎに起きる。朝食に山羊や羊のチーズ、山羊のヨーグルトとミルク、蜂蜜そして全粒粉の自家製パンを頂く。コスタス家はオーガニックの食材を使っている。山羊は自然の草を食べているので良いミルクが出るそうだ。コスタさんは医者、奥さんのリアさんは獣医さんだ。

最初の日に行ったロトндаの建物が閉館で中に入れなかったので空港に送ってもらう途中寄ってもらう。柱のない円形天井が高くモザイク模様がなされていて当時の建築技術の高さに感銘する。

空港ではマレーナちゃんが別れを惜しんで涙で見送りをしてくれた。可愛い。

予定通りパロス空港に着陸する。テッサロニキでは雨模様だったのがここでは太陽燦燦の青空だった。

空港でタクシーを待っているとドイツ人の青年が声を掛けてくれ乗合でパラキア迄行く。

タクシーの時間の都合でノウサまでは行けないとの事だった。パラキアで降りてタクシーを待ったがなかなか来ない。レンタカー屋が声を掛けてきてノウサで返却 OK という事なのでここでレンタカーを借りることにした。尚且つ免許書を持っていなかったのノウサまで彼が運転してくれて来てくれた。ドイツ人も一緒に彼の宿まで連れて行ってあげた。

艇に戻ると艇に渡る梯子に置手紙と一緒にジャムの缶詰がつるしてあった。

艇に招待した Peerさんと Julietteさんからだった。彼らが離島する前に置いて行ってくれた。温かい心遣いに感謝する。

買い物をしてなかったので、夕食は簡単に野菜サラダとグリーンカレーを頂く。

北風が強くマリーナ内でも結構艇が揺れた。

6月25日(月) Paros 快晴 北10~20ノット

今日はレンタカーで隣の小さな島アンティ・パロスに行く。最初に洗濯物をランドリーに持って行く。39€とマシンで洗濯するには高い。コインランドリーがないので仕方ない。

パラキアの先のプンタからフェリーで渡る。島内ドライブをする。Georgiosの入り江は北風を完全防ぎ良い錨泊地になっている。今日も北風が強く吹いているが静かな海面で6艇ほど錨泊している艇も揺れていない。

お昼にそこでグreekサラダ、ズキーニボールとグリルドサーディンを食べる。上手にクックしてあり美味しかった。

レンタカーを16時に帰すので早めにフェリーにのって戻る。途中スーパーマーケットABストアーに寄って当面の食料を調達する。

16時に約束していたノウサの駐車場で待つが来ない。結局1時間遅れで来る。彼はひたすら謝るのみだった。

朝お気に入りの魚屋さんで生タコと日干しの鯖を頼んでおいたので取りに行く。彼らも我々に大変親しみを持ってくれて親しくお話をする。奥さんと二人でお店を切り盛りしている。そして夏休み中の小学生のお子さん二人がお店で遊んでいた。

別れ際日干しの鯖を2尾加えてくれ鯖の分はおまけにしてくれた。

ひと泳ぎした後気持ち良くシャワーを浴びる。

夕食はタコの湯引きと頂いた日干しの鯖をパロスの白ワインで頂く。久しぶりのタコの刺身、そして日干しのサバは程よい脂がのって大変美味しく頂いた。

風も収まってきて艇の揺れも収まってきた。

6月26日(火) Paros 快晴 南5~15ノット

そろそろパロス島からキスノス島にと考えていたが、今日は風の予報は追手の順風で良いのだが雷注意報が出ているので出港を諦める。明日は南の強風と同じく雷注意報が出ているので28日出港予定とする。

10時に洗濯物を取りに自転車でランドリーに行く。

お昼は港内の常連になったコーヒーショップでWIFIを使いがてらグreekサラダとツナサンドで済ます。

結構連絡事項や調べごとが多くそれで時間を費やす。

一日ゆっくりする。

前日魚屋さんが鯖の干物をサービスしてくれたのもあってお箸のお土産を渡しに行く。

小学生のお子さんが日本に興味があり喜んでくれた。

夕方は日課の海水浴をしてからコクピットで読書をして過ごす。日没が20時30分なので夕方からの時間を十分使える。

湯引きのタコで一杯飲んでからサラダと日干しの鯖で夕食を頂く。野菜はいっぱい食べることにしている。

のんびりした一日が終わる。南風に代わり明日から強風になるので湾の南側に錨泊艇が集まり数えたら38隻錨泊していた。ここの湾は広く北風の場合は北側に錨泊地があり、尚且つエーゲ海のほぼ真ん中に位置して安全な錨泊地なので多数の艇が集まっている。

港にあるマリーナはいっぱい入って来ても繋留場所がなく諦めて出て行く艇が多くあった。

6月27日(水) Paros 晴れ時々曇り 南15~25ノット

今日も雷注意報と南の強風の気象予報なので出港しない事にする。

明日まで強風は続きそうだ。

テッサロニキから帰ってからはいつも同じような生活パターンを繰り返している。これがのんびりして良い。

朝食後これからの航海の調べ事をしてからコーヒーショップでコーヒーを飲んで馴染みの魚屋さんで鯛に似た魚を買ってさばいてもらい夕方取りに来ることにした。

お昼は鯖サンドを頂くが全粒粉のパンと日干しの鯖で美味しかった。

午後は昼寝、読書そして夕方泳ぐ。最近は20分以泳いでいる。

夕方魚を取りに行きお箸の使い方を子供たちに教える。勘定をしようとしたらサービスとの事、これはまずいので10€を置いてきた。

ちょっとしたことで心が通じるようで心が暖かくなる。

明日出港予定だが雷予報はなくなったものの風の予報が相変わらず強い。マリーナの女

性のハーバーマスターに聞くと明日の出港は良くないとの事なので明日もここに居ることにする。

夕食は生野菜、温野菜と魚のグリルを白ワインで頂く。毎日なのでお酒の量を減らすよう心がけている。

食後にエスプレッソを作る。

9時過ぎに暗くなり船内に入り読書で過ごして休む。

6月28日(木) Paros 快晴 南西 15~30 ノット

今日は昨日より強風だ。西寄りに風向が変わり瞬間最大風速 36 ノットを記録する。

昨日と同じように過ごす。

お昼前に魚屋さんに行ってシーバスを選んでさばいておいてもらう。このお魚屋さん“Geofish”とは仲良くなる。奥さんの Zoi さんとご主人の George さんと仲良く仕事をしている。奥さんの魚のさばき方も上手だ。二人の小さい男女の子供達もとっても可愛い。

お昼にグreekサラダとスパゲッティポモドーロをビールで頂く。

明日は出港予定なので一日伸ばした今日の停泊料を支払いに行くと明日は風も収まるとの事でほっとする。ここのマリーナの管理者は中年の女性だが元気よく大声を出して入ってくる艇に色々指示を出している。すっかりお友達になった。

ワールドカップの予選日本第三戦目の対ポルトガル戦が 17 時よりあるので早めに泳いでシャワーを浴びてから馴染みのコーヒーショップで観戦する。残念ながら負けるが反則数の数で何とか予選通過出来た。

夕食は私が腕を振るいシーバスと野菜の蒸し料理を作る。生ハムメロンにパロス産白ワインでスタートして、ルッコラサラダと私のシーバスの蒸し料理を食べるが、あっさり味でまあまあだった。

風の治まってきて静かな夜になった。明日の出港準備をして寝る。

6月29日(金) Paros~Kythnos(53NM) 快晴 西 12~18 ノット

7 時前に起きたら既に悦子がコーヒーとパンの朝食を準備しておいてくれた。

今日はキスノス島のルートラを一応目的地としているが、生憎と風の予報がヘッドウインドになる西風が結構強い。キスノス島の風下側の東側にシロス島があるので上りできつい場合は、シロス島に目的地を替えることにして 07:15 に舳いを解く。昨日からの南風が西風に代わり 15 ノット以上吹いていて湾外は白波がたっている。

案の定ヘディングをキスノス島に向けられないので風下のシロス島に向ける。メインセイルを開こうとするが、今回もファーリングを上手く開けない結局メインセイルは 3 ポイントリーフ以下のセイルエリアで、ジブは 3 ポイントリーフにして機帆走のクローズで走る。

うねりは無いのだが波に叩かれ時折パンチングする。それでも艇速を 6 ノット以上保つ。

3時間過ぎた位でシロス島の東側に入る。未だ12時前なのでシロス島をパスしてキスノ島に向かうことにした。島影のブランケットの間に悦子がラーメンをランチに出してくれ頂く。お腹がいつも空いている状態だ。

シロス島をかわしてから変針でキスノ島は真西になる。風も真西で今度はセールを降ろして機走にする。いつもよりエンジンの回転数を上げているが5ノットが精一杯の速度だった。残り20NMを白波のたつ海面を4時間かけて機走した。

キスノ島ルートラのマリーナに着いたが岸壁に誰も居ない。横風の強い中、陸上からの手助けがない中、アンカー打ってスターンからの槍付けは難しいので幸い空いていた岸壁の外側に横着けする。

ホットしているとマリーナのスタッフが来て横付けは禁止なので槍着けをするようにという事で繋留場所を替える。今度は岸壁に内側を案内してくれ、スタッフに舳れを取ってもらいマリーナ内に槍着けした。

早速塩を被ったデッキを水で洗う。

ここは電気、水道込みで一日20€だった。

ここは温泉があるので悦子と行くが明日からとの事、楽しみにしていたのがっかりだ。海に流れ込んだ温泉を岩で囲んで出来た海水温泉浴場があるので、其処まで泳いで行ってひと風呂浴びる。温かい温泉が流れ込んできて、気持ち良い。

夕暮れは生ハムメロン、シーバスのアヒージョで一杯飲んだ後、野菜サラダと豚の肩ロースの生姜焼きをパロス産モライテイスの赤ワイン“メルテメ”で頂く。約10時間のセーリングをしたのでお腹も空いていて美味しくすべて頂いた。

14日ぶりのセーリングなので体全身が筋肉運動した感じだった。

疲れた体を横にすると心地よい眠りが来た。

6月30日(土) Kythnos(Loutra)~Kea(Kavia) 30NM 快晴 西5~10ノット

このところ2012年にトルコで知り合ったEva, John夫妻とコンタクトを取っていた。彼らはギリシャの北スボラデスに滞在中で我々も其処に向かいあう予定でいたが2週間もパロス島にいたので日程が延びていた。そして彼らのいるOreiに到着するのに後3日ほどかかる。彼らも予定があり北スボラデスをトルコに向けて出港しなければというお事で今回のランデブーは諦めることにした。彼らとは2012年に会って以来シチリア島とエリクサー島で何回か再会している。

08:15に朝食後舳れを解く。我々がアンカーを打った場所付近に後から来たカタマランが停泊して我々のアンカーがカタマランの下にある可能性がある。もしそうだとアンカーを揚げられないのでマリーナのスタッフに事情を説明して、その時の手配をお願いしてアンカーを揚げる。幸いに問題なくアンカーは揚がる。

帆走中Evaからメールが来て予定場所で会えないのがはっきりしたので当初予定していた55NM先の目的地Almiropotamosから途中の島ケア島に変更する。25NM程近くなる。

ケア島の東側のフェリーの入る大きな港 Nikolaou を覗いてから小さな入り江のアンカーレッジに行く。2009年に友人の Gerald と来たことがあると思って寄ったが違っていた。

ちいさな入り江でブイ舫いと船首にアンカー打って船尾を岩壁に舫っているモータークルザーがいたりしてアンカーを打つ場所が難しい。水泳用の囲いと思っていたブイが舫い用のブイで近くを通った地元のボートに聞いてみると舫い OK との事、ブイを確認して安全なブイに舫う。

隣のブイには大きなラバーボートで来たギリシャ人の家族がいて親しく話しかけてくれた。

早速悦子と泳ぐ。

静かな入り江で、まだ高い夕日を眺めながら生ハムメロンで一杯飲んだ後、ブッコラのサラダと昨晚と生姜焼きの豚の肩ロースを赤ワインで頂く。食材が不足していたので同じメニューになった。

7月1日(日) Kea(Kavia)~Sounion 15NM 快晴 北10ノット

今日は15NMと近い距離なので朝食を済ませて泳いでからゆっくりと09:45にブイの舫いを外す。

北からの10ノット弱の良い風が吹いていたので直ぐセールを揚げて帆走に移る。5~6ノットの艇速をキープして気持ち良いセーリングを楽しむ。アテネが近くなったのと大きなオリンピックマリーナもあるせいか行き交うヨットが多くなる。アテネの入り口になるスニオン岬の突端の崖の上に立つポセイドン神殿の石柱が遠くからわかる。

スニオン岬の裏側にある錨泊地に近づくと20隻近い艇が錨泊していた。錨泊地が比較的広いのでアンカーリングの場所は見つけやすかったが1回目はアンカーが効かなかったので別の場所に再度アンカーを打って効かす。水深10mの砂地だった。悦子が泳いでアンカーを一応チェックしに行く。ばっちり砂に食い込んでいるとの事だった。50mチェーンを伸ばす。

お昼にスパゲッティポモドーロを頂く。ビールを飲みたいところだったがこの後泳ぐのでビールは諦めた。

日曜日でもあり多くの艇が出入りしている。

泳いでペラの貝取りをするがあまり付いていなかった。艇で本を読んだり、昼寝をしてからテンドーを降ろして CAVOK5 とポセイドン神殿を入れた写真を撮る。

18時にテンドーで上陸してポセイドン神殿に行く。16本の白い大理石の石柱が青空に聳えている。荘厳の雰囲気だ。紀元前444年に建てられたドリア式建造物だそうだが石柱は堂々と残っている。

又ここから見るエーゲ海の眺めはパノラマでケア島もすぐ前に見えた。

夕食海辺のタベルナまで歩いて乾いた喉をビールで潤おしてから、シーズンサラダと其々ヴィール・ステーキとポーク・ヒレを食べる。席がいっぱいだったがギリシャ人の二

人連れのご婦人が相席してくれた。アテネから来ているようで感じの良いご婦人たちであった。



ポセイドン神殿がライトアップされ夜空に高々と聳えるように見えた。

21時に艇に戻りナイトキャップをして寝る。時折沖合を通る大型船の影響か通過時のうねりが入り艇が揺れた。

7月2日(月) Sounion~Ermioni (40NM) 快晴 微風一時北西8ノット

スニオン岬の入り江は沖に本船が通るのでその時の引き波が若干入って来て時折艇が揺れる。

水が綺麗なのでついつい泳ぎたくなり朝食後ひと泳ぎしてから08:40にアンカーを揚げる。

今日はペロポネソス半島のエルミイオニに行く予定だ。本来はイドラ島に着きたいのだが、この港はビジターバースも少なく観光船も多くパイロットブックによると係留場所を見つけるのは困難と書いてある。以前に今回会う予定をしていたJohnさんがエルミイオニに繋留してフェリーでイドラ島に行くと良いと教えてくれていたのでそれに従った。

途中アテネに入港する本船や帆走を楽しんでいるヨットに度々遭遇する。3時間ほど良い風が吹きセーリング出来たがその後は風が変わったり弱くなったりで機帆走した。

お昼は久しぶりに茶そばをビールで頂く。

エルミイオニも小さな港で既に棧橋はほぼいっぱいであったが 1 艇出て行った艇があり其処にアンカーを打っての槍付けをする。両サイドの艇の人が舳れを取ってくれる。

ここは港の外も絶好の錨泊地になっていて数艇錨泊していた。

錨泊が続いたので水の補給と洗濯をする。食料も無くなっていたので野菜、果物そして肉の買い出しに行く。肉は牛肉と鶏を買う。

夕食は大盛の野菜サラダとビーフステーキを頂くが美味しい肉だが筋が多く、日本で食べる肉とは違った。

夕食が終わったときに隣の艇のキャプテンがワールドカップの日本とベルギーの試合をやっていると教えてくれたので早速レストランでコーヒーを飲みながら観戦する。残念なことに最後のロスタイムで 1 点入れられ 2 対 3 で敗れた。

お店ではスイス人のご婦人が声を掛けてくれ日本に行ったことがあり思い出深いと話してくれた。又隣の艇のイスラエル人の方も日本人は品よく素晴らしいと褒めてくれた。

もう一つ驚いたのはトルコのマリマリスの御気に入りのレストラン “AZMAK” であったというロシア人が声を掛けてくれた。全くの偶然だ。

日中暑かったが陽が落ちてから涼しくなり快適な夜を過ごして休む。

7月3日(火) Ermioni 快晴 微風

エーゲ海の風予報を見ると中央部(キクラデス諸島)はかなり北風が強く吹いているがペロポネソス半島側では吹いてない。6月中にエーゲ海を横断して正解であった。

今日はフェリーでイドラ島観光に行く。ヨットでイドラ島の港に繋留出来たら良いのだが、パイロットブックやヨットマンからの情報から判断すると混雑していて繋留は困難なとの事だった。そんな訳でイドラ島に近いエリミイオニに繋留した。

10時発のフェリーに乗って10NM先のイドラに行く。イドラは18, 9世紀に東地中海の海上交易で巨大の富を築いた商業の島だ。その後1821年にオスマントルコからのギリシャ独立戦争が始まったとき商船が中心になって艦隊を作って応戦した一つがイドラ島であった。

その後歴史の場面から消えるが近年になって芸術家の島として人気を集めてきた。

イドラ港に近づくと当時の館が港を囲むように建っているのが見えてくる。クロアチアの港の風景に似ていた。

小さな港に入るが大混雑であった。繋留場所を探して右往左往しているヨットが数艇居たが、繋留場所が無く港を出て行く。チャーターヨットは縦二列に繋留していた。エルミイオニに繋留して正解だった。

往年栄えた商人たちの館が港から続く丘の上まで立ち並び当時の繁栄が偲ばれる。

1時間程散策した後港の前のショップでオレンジジュースを飲む。こちらのオレンジジュースは一杯にオレンジ5, 6個を縛った新鮮なジュースで美味しい。

このイドラの町は、基本的に車は禁止なのでロバが車の代わりをしている。

芸術家の島らしくおしゃれなデザインの装飾品や工芸品を売っているお店が多い。アテネからフェリーが 10 本も出ているせいもあり観光客も多い。久しぶりに日本人観光客に会う。

帰りは 14:20 発のフェリーなのでフェリー乗り場の前のタベルナで、生ビールで喉を潤おしてグreekサラダとツナサンドをお昼に食べる。

エルミオニに戻ってから悦子と二人で火照った体を海水浴で冷やす。

今晚は魚という事で魚屋に行くと、新鮮なプローンとシーバスがあったので買う。

夕暮れ時のハッピーアワーにウイスキーのソーダ割りをゴートチーズ、ブロッコリーとプチトマトで楽しむ。

夕食はトマト、ブロッコリー、胡瓜とレタスのサラダ、ラタトゥイユの野菜を中心にメインは蒸しプローンを頂いた。ラタトゥイユの野菜のエキス、そして新鮮なプローンをパロス島の白ワインで頂く。食事を始めた 19:30 には太陽は水平線よりまだ高い位置にいた。そして食事の終わった 21 時にやっと太陽が沈み薄暮となっていた。

今日も平穏な素敵な日を過ごした。

7月4日(水) Ermioni~Spetsai (Baltizas) (12NM) 快晴 微風、

13日よりヨット部の後輩が来るのと7月後半から夏休みを利用して次女の次男の孫の翔君が来ることもあって偵察兼ねてスペッツサイ島を訪ねることにした。

10時にスターンの舳を解きアンカーを揚げて静かな海面へ出る。数々の島と半島の間を機走する。行き交う艇も多い。

スペッツサイ島のメイン港を覗いてみるが繫留場所も少なく景観も魅力的でないので当初予定していた Ormos Baltizas の錨泊地に行く。ここには既に 10 艇以上錨泊していた。其処は砂地で場所も広くアンカーも打ち易く水深 7 m にアンカーを打つ。悦子が早速泳いでアンカーの効きをチェックしてくる。砂地にしっかりとアンカーは食い込んでいた。クリスタルウオターで良い泊地だ。

お昼にトマト、胡瓜とブロッコリーのサラダと昨晚のラタトゥイユを使ったオムレツをビールで頂く。真っ青の青空とクリスタルブルーの海の上で食べる食事は最高に美味しい。

泊地でのんびりと自由時間を楽しむ予定だったので本を読んだり暑くなると泳いだり昼寝したり贅沢な時間を過ごす。

夕食は昨日購入したシーバスを BBQ にする。ニンニク、ニンジン、茄子、オニオンも一緒に焼く。

BBQ はマリナーでは周りの艇に迷惑をかけるので出来ないが錨泊の時は楽しめる。

トマト、胡瓜、サニーレタスにルッコラを混ぜたサラダの後にシーバスを頂く。残り火にして時間をかけて焼いたが上出来な焼き具合で美味しく頂いた。

入り江での夕日が大変綺麗だった。

静かな入り江で気に入ったのもう一日ここでのんびりすることにする。贅沢な時の流

れを楽しんでいる。

星空の綺麗な夜を静かに過ごす。

7月5日（木）Spetsai（Baltizas）快晴 微風

今日も良いお天気だ。もう10日以上同じようなお天気が続いている。夜中は無風朝方北寄りの風、お昼過ぎから南寄りの風になる。午前中10ノット弱の北風が吹き午後10ノット強の南風が吹く。

毎日がお天気でご機嫌だ。朝食を朝の音楽を聴きながら頂く。アンズとネクタリンのフルーツ、バナナ入りヨーグルトに蜂蜜、全粒粉のパンに蜂蜜そしてコーヒーのいつもの簡単な朝食だ。

食休みの後メール等の整理をするが、その後は何もしない日に決めた。

泳いでお昼にトマトと胡瓜のサラダにオムレツを頂き、その後も昼寝、読書、水泳と思うが儘に過ごす。自由時間を満喫した。

カリフラワーとオニオンの酢漬け、胡瓜と味噌で一杯水割りを飲んだ後夕食にトマト、サニーレタス、ルッコラのサラダ、メインに鶏の胸肉のグリルを赤ワインで頂く。

サラダは定番で私は血管のプラークが心配なのでオリーブオイルを出来るだけ使わないようしている。そんな訳で其々味付けをするようにしている。私はビネガーだけで味付けする。

もちろん悦子はオリーブオイルを使う。

夕食が終わってゆっくりしているとIpadにメールが入る。“Hello Yoshi and Etsuko.Is this your boat portside in front of us. from Gaby and Uwa” 周りを見渡すが相当するのがカタマランだったので、艇をカタマランに替えたのかと返事すると、違うブルーの艇の後ろだとの返事が来たので見ると彼らの艇が見つかった。

早速ラバーボートを降ろして彼らの艇に行く。彼らとは2012年の10月にキスノス島で知合いCAVOK5と一緒に食事をした。その後もメールのやりとりはしていたが偶然6年振りに再会出来た。良く気づいてくれた。ドイツ人の夫妻で我々よりだいぶ若い。彼らの友人夫婦と一緒に乗っていた。その後別の艇から夫婦が来てにぎやかになる。ワインをご馳走になり明日は近くのDokos島に錨泊するとの事、そしてそこでBBQとの事一緒させてもらうことにした。

ドイツ人の集まりであったが皆さん同じ町に住んでいるとの事だった。若い夫婦の旦那はパイロットだという事で話も弾む。

とっても感じの良い人たちだった。

明日9時出発という事でおやすみなさいする。

今晚も満天の星で悦子はデッキで暫く夜空を楽しんでいた。

7月6日（金）Spetsai～Dhokos（Skindos） 快晴 午後から南東7～12ノット

9時きっかりにアンカーを揚げて Gaby の“Eligius 号”と彼の友人の“Iki 号”と一緒に 3 艇で出発する。途中 4 NM 程先のペロポネソス半島にあるポルト・ヘリに寄る。ここは比較的大きな港で湾内は絶好のアンカーレッジになっていて広い場所に沢山の艇が錨泊していた。

大きなスーパーマーケットもある大きな町なので買い物の為に寄った。湾内にアンカーを打ってテンダーで上陸して食料品を買い込んだ。

岸壁に槍付けしている艇もかなりあったが、電気、水道もなさそうなので槍付けしてもあまり意味がないようだ。

その後イドラ島の隣にあるドコス島に向かう。丁度南東からの 10 ノット前後の良い風が吹き気持ち良いセーリングを楽しむ。私の艇はあまり早い艇ではないが Eligius 号は鉄製の艇で重く、Iki 号は小さな艇なので船足が遅い。私の艇が大分先行してしまったので途中リーフして速度を落として待つ。お昼は昨日と同じサラダにラタトゥイユ入りのオムレツを頂く。

ドコス島の Skindos 湾に 15:30 にアンカーを打つが Gaby が良く知っていてアンカーの打つ場所を指示してくれた。湾の南東側に棚があり水深 8 m の砂地だった。

早速悦子が泳いでアンカーの具合と岸近くの障害物のチェックをしてくれた。

岸まで比較的深くアンカーもしっかりと食い込んでいて問題なしだ。40m チェーンを伸ばした。

私も暑い体を泳いで冷やす。海に浸かると暑さが飛んで心地よい。

夕方 19:30 から浜で BBQ との事で悦子はお稲荷さんを作り玉ネギ、パプリカとニンニクと醤油に着けて T ボーンの豚をビール、ワインと一緒に持ってテンダーで上陸する。

あちこちのドイツ艇の人たちが集まり全部で 15, 6 人は集まった。大体我々より少し若い 60 歳前後の夫婦でリタイヤーの方が殆どだ。

二つの持ち込み BBQ 台で各自持参の食べ物を焼き各種サラダやラタトゥイユや艇で作ってきたものが並ぶ。とても美味しく作ってきている。

中心になる Gaby の話では前々から予定していたのでなく何となく近くの艇が集まって時折このようなパーティーを開くそうだ。トルコのマルマリスに艇を置いている夫婦もいた。

我々だけの浜で夜風が心地よく食後は全く灯りのない浜で満天の星を眺めながら其々お話をしている。

23 時過ぎにお開きになり真っ暗な浜を、テンダーを置いている場所まで歩き艇に戻る。

素晴らしいヨット仲間達との一日だった。声をかけてくれた Gaby と Uwa に感謝する。



7月7日(土) Dhokos(Skindos)~Poros (20NM) 快晴 南東10~12ノット

微動だにしない静かな入り江だった。水も少なくなったので今日はポロス島に行くことにする。朝は全くの風なのでゆっくり出ることにする。何時もの朝食後昨夜のBBQで一緒だったEligius号、Iki号、Coco Loco号に泳いでBBQのお礼とさよならの挨拶をしてくる。

10:30にアンカーを揚げる。入り江から出ると良い風が斜め前方から吹いてくる。フルセールにしてクローズホールドで快調なセーリングを楽しむ。12ノット近い風で6ノット弱の速度だった。

岬を廻り風が治まってから昼食にチャーハンを頂く。炭水化物を取らないようにしていたので久しぶりのお米を口にする。ビールを飲みながら美味しく頂く。

ポロス島と本土との狭い水路を抜けていつも舫うポロス島の岸壁にアンカーを打って檣付けする。岸壁に手伝ってくれる人がいなかったので自ら舫いを持って岸壁に降り舫う。

久しぶりに電気、水が使える。充電の必要なものは全て充電、水タンクはいっぱいにしてデッキ洗いをする。ラバーボートをデッキにあげて、燃料屋さんがタンクローリーで来たので給油する。99L入り142€だった。1L辺り1.4€になる。こちらは軽油も高い。

悦子は艇の前のコーヒーショップでメールをやっていた。

岸壁の艇の管理人が18時過ぎに来るといっているので待つ。このように港の岸壁に舫う繫留場所は事務所が無く、時間で管理人が来るようなケースが多い。此方の時間で動けないので不便である。

電気、水道は管理人がメーター管理していて、使用料に応じた額を支払う。

我々は舫って直ぐ電気、水道をつないだが、そこは前回使用した人の残りの分で残り少なく新たに追加をお願いする必要があった。

18 時過ぎに管理人がきたのでその旨伝えるが残っている電気を全部使いきらないと新たに追加できないとの事で電気消費量の多いボイラー、電熱器等を使ってゼロにしてくださいとの事だった。残りの料金が 0.5 セントぐらいだったので 1 時間弱で使い切った。

そして後で管理人が来て追加するという事だったので待っていたがいつまでたっても来ない。21 時前まで待っても来ないので仕方なしに艇の前のテベルナで食事して管理人が来るのを待つが来なかった。このようなことが時々あるので困る。

テベルナはたいしたものはなく、ビール、赤ワインにグreekサラダ、ビーフステーキとミートバーガーを食べる。ビーフステーキは油気のない肉で筋もなく気に入った。

艇に戻り食休みをしていたらそのままコックピットで寝てしまい気がついたら 1 時を回っていた。夜風が心地良い眠りを誘う。

7月8日(日) Poros 晴れ、夕方雷雨

朝までぐっすり寝る。いつも気持ち良い朝を迎える。朝食は前のコーヒーショップで食べることにした。いわゆる我々の云うコーヒーはギリシャではフィルターコーヒーという。

フィルターコーヒー、蜂蜜入りヨーグルトとトーストの簡単な朝食をとる。

午前中出港した艇の後に直ぐ艇が入ってくる。土曜日に貸し出すチャーターヨットがアテナに近いここポロス島に最初の目的地として集まるのかもしれない。

隣の艇はいつの間にか出て行きその後に入ってきた艇が昨日 BBQ で一緒だった IKI 号だった。偶然が続くものだ。再会を祝す。明日 Gaby と Uwe がポロスに来るとの事だった。

午前中に港の周りを散策する。ここは長い岸壁に色々な艇が繫留出来るようになっている。フェリーや大型艇の船着き場、チャーターヨット用プライベートの岸壁、一般向けの岸壁、漁船用岸壁がある。場所によっては電気、水道があつたりなかったりしているので調べて歩いた。そして港沿いにあるお店を覗きランドリー、船具屋、魚屋を見つける。とっても新鮮なカサゴを見つけた。後で悦子と来て二尾買って今晚のおかずにする。

船具屋は日曜日のせいか閉まっていたがランドリーは開いていたので後で洗濯物を出す。

お昼は野菜サラダに久しぶりに豆腐を頂く。豆腐は私のダイエット食品だが美味しい。

食後はのんびりした豊潤な時間を過ごす。

夕方水泳をしに自転車で港側と反対にある海水浴場に行き 30 分ほど泳ぐ。今のところ水泳が大事な運動となっている。浜にあるシャワーを浴びて戻る。

水中メガネが 2 つしか艇にないので顔にあったメガネを見つけたので買う。

朝食を取ったコーヒーショップで、二人でビールをのんで WIFI を使う。

シャワーは今日も船尾のシャワーを使って海水パンツをはいて浴びた。

夕食はプチトマト、サニーレタス、ルッコラ、キュウリのサラダと今朝仕入れたカサゴ

のアクアパッツァを白ワインで頂く。サラダのプチトマトの味が濃い甘さがありサラダの味を盛り立てた。新鮮なカサゴのアクアパッツァは味付けも上出来でカサゴのプリプリの身と相まって美味しく頂いた。

夕方雷雲が横を通過して行ったが食後に来た雷雲は一時的に大雨を降らしていった。

お陰で気温も爽やかになり過ごしやすくなった。

外ではサッカーの試合の応援で盛り上がっていた。

7月9日（月）Poros 快晴 順風

明日までポロス島にいることにした。ゆっくり出来るのが何よりだ。ここの岸壁の係留場所は広くそして電気、水道がない所やフェリー用、対岸への渡し船用、漁船用、大型船用そしてチャーター会社用と別れている。今後の為にスケッチをしておく。

その他ラバーボート用の空気ポンプの部品、プロペラの貝取り用のヘラとか細かな買い物をする。中々欲しいものが直ぐ揃わないので見つけると嬉しい。

日曜日はスーパーマーケットが開いていなかったの今日食料の買い足しをする。

あっという間にお昼になってしまう。

お昼は久しぶりに茶そばを頂く。暑いのでビールが美味しいが昼食後は気持ち良くなり昼寝となる。

夕方日課の水泳に昨日と同じ海水浴場で泳ぐ。

Eligius 号がポロスに入って来てアンカーリングする。

またまた一緒になったので隣の IKI 号の Maranca さんと Eligius 号の Gaby さんと Uwe さんそして Gaby さんの友人夫婦をハッピーアワーに招待した。

18時より生ハムメロン、蒸エビ、サラダ、チーズの盛り合わせでビール、ワイン、ジントニックで盛り上がる。

そして Gaby さんの友人夫婦が明日帰国という事で、20時から Gaby さんがレストランを予約してあるとの事だったので一緒に参加する。

彼らはギリシャについて詳しく知っている。今回はサロニコス方面とスプラダス方面の錨泊地を大分教えてもらった。彼はプロのダイバーでもある。

そんな訳で馴染みの港からちょっと高台にある素敵な雰囲気のレストランだった。

ハッピーアワーで我々は結構お腹が膨れていたのあまり食べられなかったがラムのオープン料理を皆さんで食べた。2時間以上ラムをオープンでグリルした料理でさっぱりした味で赤ワインと美味しく頂いた。御馳走になってしまった。

素敵なレストランだったので今度14日にヨット部一同が来た時の為に予約を入れておいた。

帰りに又彼の知合いの店に寄って一杯飲んで艇に戻ったのは1時前だった。

すっかり良い気持ちになり、コックピットで横になったらそのまま朝まで寝てしまった。

ぐっすりだった。

7月10日(火) Poros~Salamis(32NM) Clear 微風

6時過ぎに目が覚める。コックピットの上だった。昨晚遅かったので寝足りず船内に入ってもうひと眠りする。

Gabyの友人夫婦が8時のフェリーでピレウス港に行くので見送ろうと思っていたが起きたのは8時過ぎで寝過ごしてしまった。悦子も同様だった。

起きると隣のIKI号にGaby夫婦も来ていて朝食を食べていた。一緒にコーヒーを頂きながらダイビングについて聞く。私もダイビング機器を艇に積んでいるのだが未だ使ったことがない。彼に診てもらったら問題ないとの事だった。

我々はサラミスに行くのでお別れするが、彼らは暫くこの周辺にいるとの事なので再会を約す。

10時にアンカーを揚げるが他艇との交差もなく揚がる。10ノット近い北東の風が吹いているのだが向かい風なので機走する。

お昼に昨晚の残り物を頂く。

サラミスの港に入るとPaulが彼の艇から手を振って迎えてくれた。そして彼の隣に15:10に舫う。

約1年振りの再会だ。Paulは昨年ここで会ったのが初めてだが、色々とサラミスを案内してくれたり友人の艇の手伝いをしてくれたり昨年は友人の艇の助人で1週間ほど友人の艇にのり我々の艇と一緒に航海した仲の英国人だ。

彼は新しい艇に替えていた。パートナーのTanyaさんと愛犬とも再会を祝した。

今晚CAVOK5での食事に招待する。心地よく受けてくれた。

そして昨年マリナーでお世話になったEriさんにも連絡を入れて来てくれることになった。

PaulさんとTanyaさんはワインの差し入れEriさんは彼氏と一緒にケーキを差し入れてくれた。

悦子はアピタイザーにメロンとハム、キノコのアヒージョ、チーズとハムの盛り合わせを作る。色々な話になるがPaulさんはスペインで新しい艇を購入して12月に艇をここまで運んだとの事だったが冬の海が荒れて大変だった話を聞かせてくれた。又車を英国から3泊かけて運んだそうだ。

Eriさんは12月にマリナーを辞めたそうだが喜んで来てくれた。

メインに1時間半オーブンでグリルした大きなTボーンステーキを切り分けて頂く。

柔らかく脂もそこそこで美味しいビーフだった。

狭いコックピットで楽しいひと時を過ごした。爽やで誠実で好感を持てる人たちとの集まりは楽しい。23時にお開きにして片付けをして休む。

7月11日(水) Salamis 快晴 順風

昨晚の宴会のお酒のせいもありぐっすり寝てゆっくり起きる。寝るときは天窓を開けて寝るがそこから見える空はいつも雲一つない青空で気持ち良い。そして風が爽やかで心地よい。地元の人に言わせるとこんなに涼しい気候は毎年ないとの事だった。

今年は扇風機も使っていない。

何時もの決まりのコーヒー、バナナ入り蜂蜜山羊ヨーグルト、フルーツと蜂蜜かけてのトーストと簡単な朝食だが美味しく朝の楽しみだ。

朝食後日差しが強くなる前に、昨晚ライトアップされていた港の丘の上にある教会を訪ねる。

細い道を登ると漆喰で真っ白に塗られた教会に着く。風が通り気持ち良い。そしてアテネがペルシャの艦隊を打ち破ったサラミス海戦で有名なサラミス海峡と CAVOK5 を泊めてあるサラミナ湾が眼下に見える。

汗をかいたので帰りにコーヒーショップにより一休みしてから AB スーパーマーケットで買い物をして帰る。アテネに近いせいもあり物は何でもそろそろ。私はボーダフォンのショップを見つけたのでスマートフォンの SIM カードを買う。1 か月 7 GB で 10€だった。

お昼は昨日の残りのギロスで紅茶で頂く。お酒を出来るだけ控える様心がける。又宴会の後は前日の残り物の整理になる。

午後ゆっくりした後 30 分日課の水泳をする。

未だ太陽が水平線の上にある 7 時ごろからジントニックを二人で楽しみそのまま夕食を始めてサラダと赤ワインでビーフシチューを頂く。ビーフシチューは昨晚の残りのビーフを使ってだが美味しかった。

夜風が心地よい。食後にコーヒーと昨晚 Eri さんからの差し入れのケーキを頂く。

7月12日(木) Salamis 快晴 微風 午後北北西 10 ノット

朝港を歩いているとかなり大きなマーケットが開いていた。野菜、果物、魚、洋服、雑貨と何でも打っている 200 軒ぐらいの屋台のテントが張られ沢山の買い物客が集まり活気がある。

戻ってから悦子と買い物をする。非常に安い。新鮮な野菜、果物そしてアーモンド、クルミまで買う。万歩計の電池も買うが 10 個入りで品質は不明だが 1 €だった。

こちらの人は週一回のマーケットで日常の生活用品を購入しているようだ。

お昼にまだ残っていたビーフを使ってのポトフを頂く。味が染みてきて日々美味しくなる。

午後町で水中銃を買いに行くが Uve さんお薦めの 75 cm 銃は簡単に私の力ではゴムを引けない。今まで水中銃を使ったことが無かったので危険性含めて心配になり諦めてヤスにした。AB ストアでは扇風機を 2 台客室用に購入する。

明日はピレウスの Zea Marina に行く予定だ。14 日に乗艇予定の柳澤、中里、小森、柳

沼さん達の準備のため Paul さんに車でスーパーマーケットまで乗せて行ってもらう。

Lidl のマーケットが安いというので其処に行く。重たい水、ビール、ワインを 6 人分 4 日分、そして当面の食料も購入する。

Paul さんの車のお陰で助かる。

夕方いつも通り海水浴だ。夕方になると日差しが弱まるせいか地元の人たちが泳ぎに出ている。日課の 30 分を泳いだ後、艇の船尾で体を洗う。

夕食に Paul さんと Tanya さんを誘う。

今晚のメインは鶏料理でコック・オ・バンだ。良い匂いがチキンから漂う。

生ハムとペッパーサラダ、カリフラワーとオニオンのピクルスで一杯飲んだ後メインを頂く。グリーンサラダとコック・オ・バンとはワインで鳥を煮た料理だ。ジャガイモ、タマネギ、ニンジンと一緒にワインで煮込んだ料理でワインがしみ込んで美味しく頂いた。

Paul さんにこの辺りの泊地について教えてもらう。ヨットに関しての伝聞は貴重な情報源だ。

Paul さんは自家製のフルーツヨーグルトをデザートに差し入れしてくれたので食後にコーヒーで頂く。色々なフルーツが入っていて上手に出来ていて美味しかった。

Tanya さんは一滴も又 Paul さんは少ししかアルコールを飲まない。

我々は赤ワインを頂くが今晚も良い気分になる。

今晚は風が治まってきて暑くなったので水シャワーを浴びて冷やしてからベッドに入る。今年初めての扇風機をつけて寝る。今晚もぐっすりだ。

7 月 13 日 (金) Salamis~Athens(Zea Marina) 21NM 快晴 北西 5~10 ノット

今日は柳澤、小森、柳沼さんヨット部 OB 一行がアテネに到着するのでアテネの Zea Marina に 1 泊停泊して彼らを迎える。

0800 に Paul の見送りを受けて舳いを解く。

湾内は微風で、機走で走る。湾を出てからに西北西の 10 ノット前後の風が吹き出し後ろからの風を受けての帆走を楽しむ。

アテネ港に近づくと貨物の積み下ろし待ちの貨物船のアンカーエリアがある。数えると 20 数隻停泊していた。その間を抜けてアテネ本港の隣側にある Zea Marina に入る。VHF で連絡する案内のボートが来るまで待てという事で 20 分程待機する。我々の前に 2 艇待っていた。13:10 にオフィスからちょっと離れた D ドッグに舳う。Zea Marina は 2012 年に一度来たことがある。そして昨年藤木さんの Indigo 号でも来た。係員が覚えていてくれた。

アテネの日中は暑い。オフィスまで歩いて行くとひと汗かいた。

小森さんから電話が入りアテネ空港に無事到着の連絡だった。

インターコンチネンタルホテルに到着してからアクロポリスを見学して、その後 CAVOK5 の上で歓迎会をした。

長旅にも拘わらず元気な姿で 20 時前に CAVOK5 に到着する。シャンペンと生ハムメロンで乾杯をする。

皆さんヨット部の後輩で大学時代からの付き合いだ。異国の地でこうやって会うのも粋なものだ。

21 時にマリナー内のシーフードレストランで食事をする。折角のギリシャという事でグリーンサラダ、カラマリフライ、そしてムール貝のワイン蒸を白ワインで食べた後メインに 1,5kg のグルパー（ハタの一種）のグリルを食べる。最小が 1.5kg だったので頼んだが 5 人でも量が多かった。

話も弾み白ワイン 4L を空けた。

皆さんが今日のご馳走するという事でご馳走してもらった。

23 時過ぎにタクシーを呼んで皆さんホテルに帰る。明日から CACOK5 だ。

明日 09:30 CAVOK5 集合とする。

暑い夜で扇風機を回して寝る。

Ipad が動かなくなってしまった。

7月14日（土）Athens~Poros(30NM) 快晴微風

10 時前に皆さん艇に来る。お土産の食料を沢山持ってきてくれた。

前日にすべて食料品を準備しておいたので買い出しはなく、艇と今日の行程の簡単な説明をして 10:00 に舳いを解く。今日も穏やかな海で当初北東の 10 ノット前後の風を受けて帆走を楽しむ。中里さんを除いて初めての地中海セーリングには絶好のコンディションだった。

エジナ島を右に見ながらお昼に柳沼さんが持ってきてくれた稲庭うどんを頂く。彼が調理してくれた。ビールと一緒に海の上での、冷やしつけ麺は美味しい。

パロス島への海峡に近づくとヨットが集まってきた。

14:20 に前回着けたほぼ同じ場所に舳う。早速前のタベルナで、ビールで乾杯をする。今回はゲスト 4 人が男なので 2 人分しか部屋がないのでホテルの部屋を一部屋借りる。小森さんがそこに泊まることになる。

皆さん其々町を散策したり昼寝したりして過ごす。

私は前回来た時に予約しておいたレストラン”Garden” に行つて 2 時間 30 分かけてグリルするラムを頼んでおく。帰りに魚屋さんに寄るが魚は既に店じまいしてあったがエビが欲しいと云ったら出してくれた。昨日美味しかったので今日も 500g 買う。

18 時過ぎに岸壁のマリナーの管理人が来ることになっているが中々来ない。時間があてにならないのが困る。皆さん順番にホテルに行きシャワーを浴びる。

19 時過ぎから艇でハッピーアワーを楽しむ。20 時過ぎに管理人がきたので手続きをして水、電気使えるようになる。

21 時前に予約してあった”Garden” に行く。前回 Gaby 達と一緒に連れて行ってもらっ

たところだ。

雰囲気の良い小高い所にあり感じの良いレストランでお気に入りだ。

お客さんは家族連れが多く満席になる。

グreekサラダ、ロケットサラダ、ズッキニーボール、ザジキとラムを食べる。ラムは時間をかけてグリルしているので身が大変柔らかくなっていて美味しい。赤のハウスワインを3リッター飲む。

小森さんはお昼のお酒が効いたのかぐっすり、中里さんはお疲れの様で途中からこっくりしていた。

これだけ食べて 72€だった。雰囲気が良く安くて美味しかった。

小森さんは一泊 40€のホテルに泊まる。

7月15日（日）Poros～Spetses(30NM) 快晴 順風

8時に小森さんが艇に来て皆さんで朝食を頂く。今日は日曜日なので魚屋さんが開いているか心配だったが行くと開いていた。

今日は錨泊予定なのでBBQ用にスナッパー（鯛の一種）オラーダ（黒鯛の一種）を二尾ずつ購入してさばいてもらう。

悦子達も足りない食料の買い出しをする。

09:45に舳いを解く。今日は30NM先のスッペツァ島の入り江に錨泊予定だ。広い泊地なので到着時間に心配なくセーリング出来る。ゆっくりとセーリングを楽しむ予定だ。

島と本島との海峡を抜けると良い風が北東から吹いている。早速セーリングを始めるが5ノット以上の速度で気持ち良く静かな水面を走る。

幸いに風の振れはあったものの治まることなく全コースセーリング出来た。

お昼にトマト、きゅうり、レタス、オニオンと生ハム入りのサンドイッチをビールで頂く。

美味しいサンドイッチで好評だった。

途中イドラ島の町を外から覗いて16:35に前回は錨泊したスッペツァ島のBaltizasの入り江にアンカーを打つ。砂地の底8mに40mチェーンを伸ばす。

南風が強くなっていたが南側が岸なので波一つ立たない。

早速悦子がアンカーの具合を調べに泳ぎに行き確認してくる。ばっちり食い込んでいた。

皆さんもきれいな海水の中泳ぐ。大型艇はアンカーを打って船尾を岸に舳っている。5隻ほどの大型艇が来ていた。

岸には一軒だけのタベルナがあるだけで何もなくて静かで良い。

夕暮れ時にエビを茹でて、チーズと一緒にお酒のおつまみにする。

夕食は朝購入したお魚と玉ネギ、にんにくをBBQする。

お土産に持て来てくれた“瀬祭”を飲みながら、上手に焼けた魚をお醤油で美味しく食べる。

三日月の月も西の空に見えてきて星も暗くなるにつれて数が増えてくる。食後は柳澤さんからのチョコレートをおつまみにギリシャのブランデー“メタクサ”を飲む。音楽はオール

ディーズをかけながら学生時代の話を楽しんだ。

ゲストが4人なので柳沢さんと柳沼さんがコックピットで寝る。

7月16日(月) Spetses~Vathi(Methana) 46NM 快晴 南東10ノット

朝アンカーを見るとチェーンがとぐろを巻いて艇の真下にあった。静かな夜だった。

柳澤さんと柳沼さんは外で寝たが朝方寒かったそうだ。

何時もの朝食を食べた後 07:45 にアンカーを揚げる。19時過ぎから南東の良い風が吹き出したのでセーリングに移る。波のない海面を 12, 3 ノットの斜め前からの風を受け 6 ノット前後の速度で気持ち良く走る。艇上では音楽をかけ男5人のバカ話が弾む。

サロニコス海域はプロポネス半島の東側で沢山の島々が点在する。その間を抜けたり、廻ったりして帆走する。行き交うヨットも多くなり夏真っ盛りだ。お昼にペペロンチーノとラタトゥイユをビールで頂く。ラタトゥイユとアルデンテのペペロンチーノの相性が良くとても美味しく頂いた。

途中からコースを変えて風が後ろに回ったのでジェネカーを揚げて7ノット近く出す。

メッテナの小さな半島を回り込むようにして 16:55 にバッセイの漁港の岸壁にアンカー打っての槍付けをする。小さな漁港なので繫留スペースを心配していたが幸い空いていた。約7、8隻舫っていたのが夕暮れには15艇程になり満杯になった。

水が綺麗で港の近くの岩場で早速泳いで熱い体を冷やすが海面上部は温泉の様に暖かい。少し潜るとひんやりして気持ち良い。

艇を付けたとき電源のソケットが合わないので模索していたら艇の前にあるタベルナの人がソケットを貸してくれる。早速そこに夕食の予約をしておいた。そして生ビールを飲む。冷えていて美味しい。

野外のシャワーもあり借りる。マリーナの管理人が来て停泊料18€徴収した。

こじんまりした静かな佇の港ですっかり気に入る。

何時もの様に夕暮れにカリフラワーのピクルス、中里さんからの佃煮、柳沢さんからのハンター製菓の一品のチョコレートとチーズで白ワインを飲んでからタベルナ“Vathi”に行く。

グreekサラダとミックスサラダを二皿ずつと、オクトパスのマリネ、アンチョビのマリネ、メインにポークチョップとラムチョップを食べる。一人一皿は多すぎるので一皿をシェアして食べている。赤のハウスワインで食べた。ハウスワインに外れは少ない。

すぐ前に繫留している艇に戻ってブランデーをグラッパ代わりに一杯飲んで寝る。今晚も柳澤さんと柳沼さんは外の星を見ながら寝た。

7月17日(火) Vathi(Methana)~Salamis (47NM) 快晴 南東5~10ノット

皆さんここ Vathi を気に入った。私もすっかり気に入ってここを教えてくれた Paul さんに感謝だ。折角なのでゆっくり海水浴をしてから出港することにした。

柳沼さんが海水浴場を調べて来てくれてここから歩いて直ぐという事なので皆さん歩いて行く。Methana は島のようなだがペロポネソス半島と陸続きになっている。殆ど観光客も来ないようなところで静かで良い。海水浴場といっても猫の額のような浜があり其処から小さな漁船用の栈橋がある。其処に陣取り皆さん少年、少女の様に良く泳ぐ。

小さな漁船が漁から帰ってきて栈橋に着いたので釣果を見せてもらおうとロブスターが入っていた。折角なので交渉して売ってもらった。500g で 15€ だった。

艇に戻ってから柳沼さんが持ってきてくれた揖保乃糸のソーメンとロブスターを調理してお昼の準備をしてから 13 : 00 にアンカーを揚げる。

出港して静かな海面で早速昼食を頂く。ソーメンは海では特に美味しい。6 人で一匹のロブスターだったので一人一口だけだった。

昼食が終わって暫くすると陸のブランケットから外れ良い風が吹き出す。今日も気持ち良いセーリングが始まった。3 時間ほど良い風の中セーリング出来たがその後風が落ちてきたので機走する。

Paul さんからメールが入り繫留場所を教えてくれる。17 : 50 に Paul さんに舳を取ってもらう。

サラミスのパラキア港から直接ピレウス港に行くフェリーに間に合うようにと直ぐタクシーを呼ぶ。3 泊 4 日の修学旅行気分の楽しいクルージングが終わり皆さんはアテネに向かう。

パラキア港迄一緒に行くがピレウス港ダイレクトの便は終わっていたので対岸のペラマに渡ってそこからタクシーでアテネまで行くことになる。

パラキア港で皆さんを送って艇に戻る。Paul さんはテーブルを作っていて明日できるの明日夕食をこのテーブルで食べましょうと誘ってくれた。

夕食は残り物の整理を兼ねてトマトとオニオンのサラダ、胡瓜と味噌、味噌汁、佃煮、ソーセージにご飯で頂いた。

21 時過ぎより西風が強ク吹き出す。風力 5 までになる。

舳いをしっかり絞める。風の強い中外でシャワーを浴びて給水してから休む。

7 月 18 日 (水) Salamis

今日も青空の爽やかな朝を迎える。明日悦子が孫の翔君を迎えがてら帰国するので彼女は掃除にいそしむ。

私は Ipad の液晶画面が出なくなっていたのでマリナーで修理出来る所を聞くと調べてくれ電話してくれた。ショップから見に来てくれるとの事で助かる。

1, 2 時間で艇に来るという事なので待っていると日本好きの好青年が来てくれ見てくれた。何のことはない、熱で液晶がシャットダウンしただけで二つのボタンを同時に押したら液晶画面が出てくれた。お礼を支払おうしたらいらぬとの事、何とか支払おうと思ったが受け取らなかつた。名刺を渡し日本に来るときは連絡するよう伝えた。

PCの故障は修理に時間が掛かるので困ったと思っていたので本当に助かった。

明日悦子の乗るピレウス港行きのフェリーの時間を調べがてら自転車でパレキオ港まで30分ぐらいかけて行く。17時のフェリーにする。

帰りに食料がなくなったのでスーパーマーケットに寄って明日の分だけ買う。明日は木曜日があるので其処で新鮮な野菜、果物を買う予定だ。

今晚はPaulから夕食の招待を受けているのでケーキとワインをお土産にと買って帰る。

18時から近くの浜に海水浴をして船尾でシャワーを浴びる。

20:30からPaulの艇に行きご馳走になる。胡麻のドレッシングの野菜サラダ、ブロッコリン、茄子のグリル、ポテトフライそして鶏肉のグリルを赤ワインで頂いた。今晚は彼のコックピットテーブルの完成祝いという事だったが間に合わず船内での夕食になった。Paulさんは料理が上手だ。パートナーのTanyaさんは、お酒は一滴も飲まずコカ・コーラで代用していた。

日本人の口にも合い美味しく頂いた。

23時過ぎに紅茶とケーキを頂いて一つ置いてとなりに繋留しているCAVOK5に戻り休む。

7月19日(木) Salamis 快晴 微風

今日は悦子がイスタンブール経由帰国する日だ。そして木曜日がある。

先週の木曜日で買った4€の洋服を悦子が気に入って今日も自分の分と娘のお土産にと買う。私は悦子の留守の間の野菜と果物を買う。非常に日用品は安い。

お昼は冷蔵庫の残り物の整理で済ます。昼食後の食休みを繋留中は欠かさない。その後泳いでシャワーを浴びて見送りに行く準備をする。Paulが16時半過ぎにパラキア港まで車まで送ってくれた。其処からピレウス港まで17時発のフェリーで行く。1時間弱で着く。

空港行きのバス停で見送りして私は港の近くにあったマリンショップでペロポネソス半島とイオニア海のガイドブックとサロニコス、キクラデス地域のガイドブックを購入する。一冊90€と高いが評判が良いので購入した。

その他フェンダーとカップ入れを買う。

19時発がパラキア港行きの最終フェリーなのでそれに乗って帰る。

パラキア港からはタクシーで4€だったが5€渡す。

夕食は自分一人になったときの特別食で脂質と澱粉質を極力排除した料理になる。

まずはトマト、キュウリの丸かじり、蒸鍋にニンニク、ニンジン、タマネギ、ジャガイモそして鶏肉を入れて蒸す。

ビール一杯にみそ汁という料理を食べる。鶏肉は少々だが満腹になる。

暫くこのような料理を続けようと思う。外食は脂が多すぎるので控えたい。

久しぶりの一人の静かな夜を迎えた。

7月20日(金) Salamis 快晴 微風

朝起きてからの朝食はいつも楽しみだ。今日から一人だがコーヒーを入れてゆで卵を作りトマト、胡瓜をそのまま食べる。トースト1枚焼いて蜂蜜をかける。全粒粉のトーストが美味しいのだが今日は違った。そしてオレンジを丸かじりする。

朝食後シーツ等の洗濯をする。灼熱の太陽と風があるのであつという間に乾く。

エンジンのオイルを早めに交換したいと思っていたが中々ヤンマーの純正オイルが手に入らなかった。暫くここに居るので車屋さんに行って取り寄せをお願いした。

そして20数年前にスキューバダイビングのライセンスを取ったがその後一度も潜ってなかったもので潜りたいと思っていた。丁度ダイビングのショップがあったので其処で聞くと明日土曜日に潜れるとの事、一応ライセンスは持っているが初心者同然だが教えてくれるかと聞いたところOKとの事参加することにした。

昼食の後 Paul さんが浄水器を買いに行こうと誘ってくれたので連れて行ってもらう。マリーナや港で水を補給するが飲料に適さない水がある。これを使えばミネラルウォーターだけに頼らないで水の補給が出来るので便利だ。すべて含めて70€で買えた。

早速艇に Paul さんに手伝ってもらいつけるが狭い中での作業で結構大変だった。15時過ぎに作業を始めたが中々終わらず、途中 Tanya さんが鶏のスープを作ってくれご馳走になる。その後作業を再開して終わったのが21時過ぎになる。それではと使ってみるとパッキングから水漏れがする。しっかりと締めているのだが漏れる。今日は諦めて明日原因を探すことにした。

鶏のスープだけではお腹が空いたので、ソーメンのスープとレタス、トマトそしてコーヒーにトーストを食べた。

脂質と澱粉質を抑えると食事の範囲が狭くなる。お酒もビールを Paul さんと1杯飲んだだけだ。

23時過ぎに岸壁にある水道でシャワーを浴びるが水が余熱で暖かい。

今日も静かな夜だった。

7月21日(土) Salamis 快晴 微風

浄水器からの水漏れが止まらない。パッキングを締めるのだが絞めるだけではダメなようだ。Paul に相談するとシールが足りないという事で取り外して再度パッキングをし直して修理してくれた。取り付けると今度は漏れがなく良くなった。これでいちいちミネラルウォーターを出さずにコーヒーを飲めるようになった。

13時に近くダイビングショップに集合でスキューバダイビングの講習に行く。

道具は25年ほど前に購入していたのを、検査を受けてから持ってきていたのでひと揃え持って行く。ここの店の店主のジョージが道具を見てくれ太鼓判を押してくれた。

車で島の南になる Aias club ビーチに行って講習を受ける。私は25年ほど前に3日ほどの講習で PADI の免許を取っただけなので初心者の講習を受ける。もう一人初心者はフィ

ンランド人がいて一緒に潜る。

一通りの説明、注意事項を受けてから海に入る。今日は6M の水深までも潜りとの事だった。他の人も加わり1時間弱潜るが違和感もなく出来た。上がってからバディを組んだインストラクターからベーリーグッドのお褒めの言葉をもらう。

装備の取り付け等インストラクター任せの部分があったのもっと慣れるためにも明日も潜ることにした。フィンランド人の夫婦も明日来るとの事だった。

ショップに戻ったときは18時になっていた。35€の講習代で安くて丁寧に教えてくれた。

20時から Paul と Tanya をレストランでの浄水器の取り付けのお礼に食事に招待してあったので彼らの車で島の対岸にあるレストランに行く。

波打ち側にもテーブルを出しているおしゃれなレストランで上の店では結婚披露宴をやっていた。

グreekサラダ、ロケットサラダ、蒸ムール貝、フライドカラマリ、そして小魚、エビ、貝の盛り合わせを食べるが食べきれなかった。味付けはいつも同じだが新鮮で美味しかった。Tanya はお酒を飲まないで Paul とビール、白ワインを飲む。

艇に戻ると23時になっていた。コックピットでそのまま横になって涼んでいるとこっくり寝てしまった。

7月22日(日) Salamis 快晴 微風

楽しみの朝食を終わった後、PADI のダイビング教本を読みかえして今日のダイビングに備える。

今日は10時 Salamina Diving Center に集合なのでそこまで自転車で行く。5, 6人ベテランのダイバー含めて集まった。車で昨日と同じビーチに行く。ここは小さな埠頭に梯子もありエントリーし易い。この埠頭にテント、シャワーを設置して拠点とする。ここにダイレクト昨日一緒だったフィンランド人夫婦が来ていた。今日も彼らと一緒に初心者グループでインストラクターとバディを組んで潜る。昨日は6m迄だったが今日は12mまで潜った。海の中は小魚位でさほど見るものがないがスキューバダイビングの訓練になって良かった。

教えてくれる人たちや仲間が親切で楽しい訓練だった。

別のグループは暫く休んだ後2回目のダイビングに行った。フィンランド人は車で帰ったが私はダイビングセンターの車に乗せてもらわないと帰れないので昼食にサンドイッチを近くのタベルナで食べて待つ。のんびりした一日だ。アテネから日帰りて来た子連れ夫婦も参加していた。

17時にダイビングセンターに戻る。来週も是非と誘いを受ける。

艇に戻りダイビング機器を水洗いしてついでに洗濯もする。シャワーを浴びて心地よい風を受けながらコックピットでコーヒーを飲みながら本を読んでいるとうとうとしてしま

う。

今晚は自炊の健康食だ。トマト、きゅうり、ロメインレタスを黒酢で、ジャガイモは茹でる。

そしてニンニク、長ネギ、マッシュルームと鶏肉を蒸す。お客さんには出せない料理だが自分では大満足だ。ビール 1 杯とワイングラス 1 杯で楽しんだ。一人だと量が多くなってしまいが殆どが野菜なので体には良いと思っている。

心地よい夜風を浴びながら日誌を、音楽を聴きながら書いた。

7月23日(月) Salamis 晴れ 西の強風 最大56ノット

Paul がアテネに行くので一緒にと誘われていたので朝9時に彼の車で行く。島のフェリー一乗り場のパレキオ港に行ってから対岸のペラマにフェリーで渡る。

アテネでは彼らは Tanya のビザの手続きとヨットの部品の購入の用事だったので、私はピレウスで降ろしてもらい地下鉄で乗り継いでアクロポリスに行く。新アクロポリス博物館を見学するのと今月30日に悦子と一緒に正田さんと孫の翔君が来るので観光の手順の要領を調べた。朝アテネに長旅の後着くので疲れが最小限になるような手順を考えた。

ピレウスには沢山の船具屋さんがあるので必要な部品を帰りに買って16時ピレウス港発のフェリーでパラキア港に帰るが風が一段と強くなり一面白波になる。途中経由の小さな栈橋にフェリーが船尾着けをするが強い横風の中上手に着ける。CAVOK5に戻って風速計を見ると35ノット吹いていて最大風速56ノット風力7を記録していた。キャプテンに素晴らしいテクニックと褒めたらにっこりしていた。

港に戻ると西風で防波堤を越えてしぶきが飛んできていた。又本土の方で山火事があったようで西の空が煙で雲のようになっていた。

デッキは潮でざらざらになっていた。

夕食は昨晚と同じ健康食、トマト、キュウリ、ロメインレタスのサラダ、昨晚から漬けておいた大豆を茹でておつまみに、マッシュルームは茹でてそして蒸鶏をキャビンで食べる。

ビールと茹で大豆が合う。

ここの港は殆ど揺れがないが今日は流石に少し揺れている。

7月24日(火) Salamis 曇り 微風

珍しく曇りだ。といっても青空が所どころ覗いていて日中には太陽も顔を出す。

昨日の強風からの潮の飛沫と山火事の噴煙のせいでデッキがざらざらに汚れたので水洗いをする。ついでにコックピットのシートカバー用の大きなタオルも洗濯する。

食料が底をついてきたので木曜市までの分の買い物をする。一人なので残さないように買うのが難しい。トマト、胡瓜、果物は多めに、その他ブロッコリン、長ネギ等も少々買う。

魚市場ではサーモンの切り身を買って晩食することにした。

お昼は野菜、果物にツナ缶を開けて食べる。

午後はメインセールを開くとき使うアウトホールのブロックを止めるために使うプラスチックのストッパーを探しに行く。今まで中々見つからなかったが、浄水器を買ったチャンドラーが親切で見つけてくれた。サイズが大きくて合わなかったがサイズを縮めて取り付けた。今までロープをストッパー代わりに使っていたがすっきりして良かった。

夕方 30 分泳いでシャワーを浴びて夕ご飯とスタンダードパターンで平和な豊かな時間を過ごす。

野菜が殆どなのだが生野菜と蒸した野菜、サーモンでお腹がいっぱいになり、2 杯だけ飲んだワインも効いて涼んでいたコックピットで転寝してしまう。

7 月 25 日 (火) Salamis 快晴 微風

8 時過ぎにゆっくり起きる。全く束縛のない時間を十二分に楽しんでいる優雅な朝を迎える。

悦子が孫の翔君を 8 月末に送って帰るのを止めて翔君を一人で帰国させることにした。幸い正田さんも同じ便で帰るのでこの件を相談したところ快く引き受けてくれた。

インターネットで帰りの便の変更を試みるが翔君と一緒に買ったチケットなので一人だけ便を変えることが出来ない。仕方なく電話で変更を依頼するが日本への電話が 30 分以上(金額にすると 8000 円位) かかり無駄なお金を使ってしまった。

幸い上手く変更出来て 10 月 25 日にミラノから私と同じ日に帰国出来るようになった。

お昼前に艇内の絨毯をすべて水洗いして艇内の清掃をする。結構絨毯も汚れていた。

お昼にブロッコリンを茹でてトマトと胡瓜のサラダ、イチジク、そしてツナ缶とパンでお昼を済ます。

お昼の後はシエスタになる。その後は日課の水泳 30 分だ。

今晚は Paul に夕ご飯を誘われている。味噌汁が好きだという事で“あまのフーズ”のドライフーズの味噌汁と大豆を茹でて、そして夕食は肉という事だったので赤ワインと持って行く。

Paul は料理が上手で 5 時間グリルした牛肉をご馳走してくれた。

彼は 70 歳だそうだが非常に柔和で親切で落ち着いた方で良き友達になっている。

最後はイングリッシュティーをいつものように頂いてから艇に戻る。

7 月 26 日 (木) Salamis 午前中快晴午後曇り後雷雲 一時雷雲による強風

いつも午前中は朝食後デスクで PC を使って調べごとや作業をする。

今日はその後、ベッドのシーツと椅子のカバーの洗濯をする。コインランドリーが見つからないので、ここでは自分で洗濯している。

エンジンのアワーメーターが動いたり動かなかったりするようになっていたのでオフィ

スに行きメカニックを頼む。直ぐ来てくれて腐食していた繋ぎの部分を変換してくれ直る。

簡単な事だったのだが作業手順が分からず自分で修理は諦めていた。費用は50€だった。

お昼は果物が沢山残っていて悪くなるといけないので、バナナ、イチジク、桃、オレンジを、野菜はトマト、胡瓜の丸かじりそして味噌汁、最後にコーヒーと全粒粉のパンに蜂蜜をつけて食べて。味付けしないシンプルな食事だ。

午後本を読んでから木曜市に出かけたが3時過ぎになっていたので店じまいして買う事が出来なかった。仕方なくスーパーマーケットで野菜を買ってフィッシュマーケットでエビとイカを買う。

帰りに雷雲の端っこが被ってきた。遠くで稲光と落雷の音が聞こえる。パラパラと雨が降ってきたが、洗濯物を取り込んでおいたので良かった。

風も強く吹き出し海も白波だらけになり、泳ぎは諦め自転車で運動がてら海岸線を走る。

夕方エビの茹で方をインターネットで調べて茹でる。Paulのところにも届ける。

今晚はレタス、ニンジン、胡瓜、トマトの生野菜と茹でブロッコリンとジャガイモそしてエビとパンを食べる。私の場合は人にご馳走出来る代物ではないが野菜サラダをドレッシング無しでたっぷりと、フライパンで料理すると脂を使うのでフライパンは使わず鍋で蒸して食べる。澱粉質、脂質と塩は極力排除して健康食としては良と思っている。

今日のエンジン・アワーメーターの修理も終わり艇も完璧な状態になった。

雷雲が去った後ひんやり心地よい天候となった。

7月27日(金) Salamis 快晴 微風

微風といっても海風、陸風で良い風が吹くので暑さが気にならない。

朝食後悦子が正田さんと孫の翔君と月曜日に来るので火曜日からの天気予報を調べて航海計画を練る。風が強く出港出来ない時は内陸観光が出来るところが良いので天候との組み合わせで苦労する。

今回も錨泊に最適なところがあるのだが、丁度風が強く吹く日になってしまっているので頭をひねる。

昼前にPaulがお茶を誘ってくれる。彼はコクピットのテーブルを1週間以上かけて丁寧に作っている。完成のお祝いをしたいのだが未だのようだ。

お昼は昨日買ったイカをボイルして山葵醤油で食べる。

今日も雷注意報が出ていたので夕方雷雲が来る前に泳ぎに行こうと思っていたが、昼食後ひと眠りしてしまう。

注文しておいたエンジンオイルが来る頃なので転寝の後買い物がてら自転車で取りに行く。届いていたのでホットする。

早速エンジンオイル交換をするがオイルが出きる間、日課の海水浴をしてくる。

ついでにフィルターも交換するが古いオイルを出すのに時間が必要で終わったのは夕食後になった。

夕食は野菜沢山、驚く量だと思う。生野菜はトマト、胡瓜、ピーマンと葉っぱ物を、そしてブロッコリン、長ネギ、ニンニクを蒸して食べる。お肉は鶏の胸肉を 100g 位蒸して食べる。お酒は赤ワインを 1 杯だけ。最後にパンとコーヒーという食事だ。味付けは塩もオイルも使わずお味噌だけだ。

料理というよりそのままあるものを食べている感じた。悦子がいると居ないでは大違いだ。

結局 22 時過ぎにオイル交換が終わりシャワーをやっと浴びてほっとする。

明日は Paul に買い物に付き合ってもらおう予定だ。そして昼からスキューバダイビングの予約をしている。

穏やかな一日が終わる。

7月28日(土) Salamis 快晴 微風

今日は3回目のスキューバダイビングの日だ。

Paul にお願いして 9 時に大きなスーパーマーケットに車で連れて行ってもらおう。月曜日から悦子、翔、正田さんが来るのでビール、ワイン、ミネラルウォーター等の重たい物の買い物をしたかったので助かる。

13:30 にダイビングショップに集合なのでお昼を軽くにとって自転車で出かける。前回と同じ場所で潜る。初心者が 2 人いた。今日は初心者、経験者と一緒に潜る。約 50 分の潜水時間だった。

これでスキューバダイビングの大事な注意点を理解したつもりだがあくまでも水深 12m 以下の潜水だ。今回のスキューバダイビングは艇でのアンカーを揚げる時のトラブル等対処出来るようにとの思いでやってみた。

皆さん親切な人たちで3回のダイビングを楽しみながら学習させてもらった。

艇に戻ったら 18 時前になっていた。Paul から自家製のイチジクジャムを頂く。先日彼の艇でご馳走になったとき美味しかったイチジクジャムだ。

夕食はいつも通りの野菜中心のいつもの健康食を食べている。今日は赤ワイングラス 2 杯にしておいた。

7月29日(日) Salamis 午前中快晴、午後積乱雲が少し被り弱い雨が降る

午前中メールの整理と越冬先について調べたりしていたらあっという間にお昼になった。

明日悦子一行が到着なので昨日の残りの鶏肉でお昼を食べた後、艇内の清掃をする。

清掃、整理に結構時間が掛かり泳ぎに行こうと思った時は既に入道雲が被ってきて泳ぐタイミングを逸してしまった。

明日はパルキアから 7 時発のフェリーで一行を迎えに行くのでオフィスでタクシーの予約を頼む。いつもスタッフが親切にやってくれる。

明日から悦子が来るので、冷蔵庫やキッチンの掃除をした。汚したくないので夕食は外

食にした。

自転車で港沿いにあるタベルナで食事する。健康食の関係で外食は好まない。

ビールで一杯喉を潤おす。まずはトマト、胡瓜、オニオン、ピーマン、オリーブそしてフェタチーズの乗ったグreekサラダを取る。結構量があるので一人で食べるとお腹が膨らむ。

メインはお魚にしてレッドムレットのグリルを頼んだがオイルで揚げたようになって出てきた。半分ほど食べて残す。

いつもより早く 19 時前に食事したので艇に戻ってからも明るく読書を食後のコーヒーを飲みながら楽しむ。夕暮れ時悦子がいるときはハッピーアワーになるが一人の時は別の楽しみ方になる。

明日からにぎやかになる。

7月30日(月) Salamis 晴れ

今日は悦子一行が着く日だ。朝 6:30 に頼んであったタクシーでパリキア港に向かう。7 時発のピレウス港行きのフェリーに乗ってピレウス港に渡りそこからバスで空港に 9 時前に着く。

悦子と翔君と正田さんのイスタンブールからの飛行機は定刻の 8:40 に到着、皆さん長旅にもめげず元気な姿でゲートから出てきた。

今日はサラミナ港に停泊中の CAVOK5 に行く前にアテネ見学を予定しているので皆さんの体の調子が心配だったが元気で安心した。

バスでアテネ中心街のシンタグマまでバスで行き、荷物を旅行会社に預けてホップオンバスで観光する。

最初にアクロポリスを見学するが切符売り場が炎天下の中長蛇の列で並んでいたのがガイド付きの案内のグループに入る。切符も手配してあるので直ぐ入場で来た。但しガイド料と入場料で 50€ 取られた。入場料 20€ プラスガイド料 30€ だった。

幸いわかりやすい英語で案内してくれアクロポリスの再学習になった。

パルテノン神殿は修復を続けている。毎年修復され柱が増えているようだ。何回見てもアテネを見渡す丘の上に建つ壮大な建物には感激する。当時の技術の高さと国力(都市力)の豊かさを感じる。

アリストテレス達が語り合ったという古代アゴラはアクロポリスの上から覗く。

翔君がどう感じとったか楽しみだ。

炎天下の中の見学だが風があるので助かる。

アクロポリス見学の後国立考古学博物館にホップオンバスで行きお昼を博物館の前で食べてから見学する。ここはポセイドン像やミケーネのアガメムノンの黄金の面等、クレタ島を除くギリシャ各地からの出土品が展示されていて大変見どころがある。何回見ても飽きない。

博物館の見学が終わると 16 時近くになっていたのので、シンタグマに戻り荷物を受け取ってからホップオンバスの乗り継ぎでピレウス港に向かい 18 時発のフェリーでサラミス島に渡る。

今晚は Paul と Tanya 含めて一緒に夕食する予定であったが、長いフライトとアテネ観光で皆さんお疲れなので CAVOK5 で食事することにした。シーフードのタベルナからカラマリフライ、サーディングリル、ムール貝のサガナキを、そして別のタベルナで鶏肉のギロスを取アウトする。それにメロンとハム、イチジクとサラミ、そしてサラダを作って 6 人で皆さんの歓迎と Paul のお礼を兼ねて夕食会をした。

日本からの 3 人はぐっすり眠りにつく。

7 月 31 日 (火) Salamis~Vathi(Methane) (27NM) 晴れ 微風

8 月に入ってから風の強い日があるので早速出港することにする。朝食後悦子と正田さんで港の対岸にあるスーパーマーケットに食料の買い出しに行ってもらう。

当面の食料の調達をして Paul と Tanya の見送りを受けて 10:20 に舳いを解く。

長期滞在の後いつも思うのだが海に出ると晴れ晴れする。

風が良かったので直ぐセールを揚げて湖水のような海面を滑る。翔君も海の上での解放感を味わっているようで楽しそうに船首で日光浴を楽しんでいた。

今日行くバティは A 級デインギーのイタリア大会の出場メンバーが来た時停泊したところで気に入った停泊地だ。

途中風が吹いたり止んだりで機走と帆走と半々ぐらいになる。お昼にソーメンを頂く。潮風とビールとソーメンは合う。

16:00 にバティの港に船首よりアンカーを打って槍付けする。未だ繫留場所は空いていたが 18:00 過ぎにはいっぱいになった。

前回同様タベルナのオーナーが電気のコンセントを付けてくれる。

翔は直ぐ泳ぐ。

我々はタベルナで、ビールで喉を潤おす。その後翔と一緒に暫く私も泳ぐ。

後から来た隣の艇のアンカー位置が心配なので潜ってみたが 1m 弱の間隔で交差していなかった。

夕食はタベルナでグreekサラダ、ミックスサラダ、カラマリフライ、ポークスブラキスパゲッティポロネーズを赤ワインで食べる。翔君の食欲は気持ち良かった。

疲れが未だ残っているので艇に戻り早く寝る。

8 月 1 日 (水) Vathi~Spetses (Fragkas) 47NM 快晴 微風

50NM 近くの距離があるので朝食を洋上で取ることにして 07:00 にアンカーを揚げる。

静かな海面でコーヒー、蜂蜜バナナヨーグルト、フルーツとパンで朝の海を味わいながら何時もの朝食を頂く。

通い慣れた航路を、島々を見ながら機帆走する。

お昼に何時もの悦子スペシャルサンドを頂く。ジューシーな美味しいサンドイッチだ。

15:20に慣れた Fragkas の入り江の水深6mの場所にアンカーを打つ。今回も15隻以上の艇が既にアンカーリングしていた。入り江が広いので何処にでもアンカーが打てるので気楽だ。

翔は泳ぎが大好きでアンカーを打つ前から泳ぐ気満々だ。アンカー打ってから直ぐ翔は海に飛び込みアンカーの具合をチェックしに行く。彼なりの判断でOKとの事だ。その後悦子が見に行くがOKだった。

我々も綺麗な海で泳ぐ。ついでにプロペラの貝取りをする。

泳いだ後は生ハムメロンで一杯楽しむ。

19時過ぎから食事をするがまだまだ太陽は沈まない。

夕食は野菜サラダ大盛、ポテトサラダと豚肩ロースのグリルを頂く。ご飯を炊いてくれたので久しぶりにご飯を頂くが、翔は大盛りのご飯をお代わりしていた。

豚肩ロースのグリルはニンニク醤油味で美味しかった。

静かなアンカーレッジの中、心地よい風を浴びながらの美味しい夕食だった。

夕食の後皆さんシャワー代わりに海に浸かり泳ぐ。ひと泳ぎの後は気持ち良い。

冷やした体で眠りにつく。

8月2日(木) Spetses~Monemvasia 39NM 快晴 微風

4日以降の風が強いので安全な港を探して尚且つ日程があまり遅れないように考えて Navplion に行く予定を変更して 39NM 西になるモネンヴァシアに行くことにして 08:30 朝食後アンカーを揚げる。

当初暫く斜め後ろからの良い風を受けてジェネカーで2時間ほど快走するがその後は風が治まりジェネカーを降ろし機帆走になる。

アルゴリコス湾を横切る。お昼にお握りとみそ汁を頂く。私にとっては久しぶりのご飯を口にする。ダイエットをしていて炭水化物を控えていたからだ。

お握りは美味しい。

モネンヴァシアはモンサンミッシェルの様に海から突き出し断崖絶壁の島でその陸側に港がある。ビザンチン時代に反映した要塞都市で沖合から眺めながら港に入る。ここも繫留出来る艇数が限られているので空いているか心配であったがビジター用の繫留場所に2艇分が開いていたので其処に入れる。両サイドの人が手伝ってくれ15:50に舫う。隣の艇の船名は“花見”で所以を聞いてみたら以前の所有者がつけた名前が桜が綺麗なものでそのまま船名を引き継いでいるとの事だった。オーストリア人で艇はイタリアに置いているとの事だった。

早速翔君が泳いでアンカーを見に行くが心配な感じだというので、一緒に私も見に行く。いう通りでアンカーは岩盤の上で小さな岩に絡んでいるだけで一時的に効いただけだ。

潜って20KGのアンカーを岩盤の上から砂地に降ろす。再度アンカーチェーンを引いて砂地にしっかりアンカーが食い込むのを確認した。

パイロットブックには電気があるとは書いてなかったがあって助かった。

翔君と港の中で泳ぐ。彼はいくらでも泳いでいる。

泳いだ後洗濯を各自する。

夕食は町の見学がてら海辺のタベルナで食べる。グreekサラダ、シーゾナルサラダ（これはほうれん草の様な緑の濃い葉っぱを茹でたものだった）サーディングリル、オクトパスグリルそれにズッキニーボールを1Lの白ハウスワインで食べる。新鮮で美味しかった。

8月3日（金）Monemvasia 晴れ 北東の強風 20ノット

午前中に燃料屋さんが来るので朝食後待つ。約束通り9時過ぎに来て燃料を入れる。93Lはいる。燃費は2.5L/Hだ。5.5ノット出る1800回転が経済速度になるので1800回転を巡航用のパワーにしている。

燃料給油後モネンヴァシアの中世都市を観光する予定であったが正面からの風が強く吹き出して一面白波になる。ここの港の底地は軽い砂でアンカーの効きが悪い。水深3mに対して30mチェーンを伸ばしているがアンカーの砂地への噛みも浅く少しずつずれる。明日からはもっと強い強風予報が出ているので今のピアアの反対側に地元の人が移動出来るという事で移動してアンカーを打とうとしたらコーストガードが来てここはコースガード用で禁止といわれて元の場所に戻り再度アンカーを打つ。今回はばっちり食い込んでいるが正面からの風力7の風になるという事で増しアンカーを打つことにする。予備アンカーはダンフォースの大きなアンカーでチェーンも大きいので安心できるが打つのが大変だ。

我々が予備アンカーを打とうとすると隣の艇の人が自分たちも予備アンカーを打つとの事で手伝ってくれた。頑強な男で助かる。テンドーを降ろして予備アンカーを積んで打つ場所を探すのが彼が潜って岩場の恰好な場所を探してくれ其処に打つ。岩盤に食い込んだので安心だ。

続いて彼の艇のアンカーを同様に打つ。これで強風対策が終わり安心だ。

泳いでいるとウミガメが泳いでいる。ここのウミガメは挑戦的で翔の手が噛まれた。又他艇の女性は膝を噛まれた。

チャターヨットの集団が入ってくる。先ず船頭艇が入って来て次から次に来るチャター艇の繋留場所を指示している。小さなピアなので12艇ぐらいでいっぱいになり我々がトライした反対側のコーストガード用の係留場所に着けていた。5,6艇は入ってきた。隣の艇はデンマーク人の夫婦でここに入港する前に15kgぐらいのマグロを釣ってさばいていた。

ひと柵を分けてくれたので寿司パーティーをやることにしてデンマーク人を晩御飯に招待した。

彼女の方はお腹の調子が悪いという事で来なかったが彼が喜んで寿司を食べた。

彼は44歳で仕事を中断して3か月ほど前にクロアチアでジャヌー42を購入して再婚し

た彼女と一緒にクルージングしているとの事だった。とっても好感の持てる男だった。
今日は目まぐるしい一日で疲れが出てそのままコックピットで寝ていた。

8月4日(土) Monemvasia 快晴 北東20ノット 強風

今日明日は強風予報だ。チャーター艇の集団も出て行かない。結局今日は出港する艇が1艇も居なかった。

朝10時に中世の城塞都市に観光に行く予定をしていたがアンカーが効かず岸壁に寄せられる艇があったりしたので艇から離れることが出来ず観光は諦めて艇にいる。

再確認で翔君と泳いでアンカーを確認に行くがしっかりホールドしていたので安心する。翔君はカメに噛まれたので一人で泳ぐのは怖いらしく、私と一緒にいつも泳ぐ。

お昼に翔君の希望で冷やし中華を頂く。

午後はそれぞれゆっくり過ごす。15時過ぎに隣のデンマーク人の自転車を借りて翔君と一緒に城塞都市の観光に行く。狭い険しい岩山の裾野にびっしりと中世の家と教会が並んでいる。其処から見る海が又綺麗だった。現在は中世の家は土産物屋さんになったりレストランだったりバーになっている。一番上まで上がり丘の上からみる海も素敵だった。

帰りに海風が心地よい場所にある崖の上にあるバーでお茶を飲んで安らぐ。

艇に戻ってから予備アンカーが岩に食い込んで効いているので揚げるときに揚げやすいようにアンカーの先にロープを結びその先にペットボトルをぶら下げておいた。

そして隣の艇のアンカーと我々の予備アンカーが交差していたので予備アンカーのロープを隣艇のアンカーチェーンの下を通るようにした。

彼らは明日出るとの事だったのでこれでスムーズに彼らは出港出来る。

夕暮れにスモークポークでウイスキーソーダを楽しむ。

夕食はたっぷりの野菜サラダ、マッシュルームのアヒジョ、そして昨日頂いたマグロのソテーを白ワインで頂く。夕方になり風も収まり静かな夕暮れになった。

明日もう一日ここに停泊して明後日出港を予定する。

8月5日(日) Monemvasia 快晴 一時強風後順風

今日も予報の風が強いのでここに停泊することにする。隣の艇だけ出て行った。チャーター艇のグループも停泊だ。

自転車の鍵を失くしたので鍵のチェーンをワイヤーカッターで切る。

慶応高校が夏の選抜で北神奈川代表になり今日中越高校と甲子園での初戦の日だ。インターネットで調べるとスポーツブルのアプリで見られるのが分かったので早速繋いでみる上手く行った。

正田さんと二人でタベルナに行き其処のWIFIを使って応援する。試合は五分五分の勝負あったが勝利女神が慶応について2対2のまま9回裏を迎え2死からさよなら勝ちをする。

その直後に翔君が伝言走りに来てくれ、艇が大変なことになっているとの事だった。

すぐ戻ってみると隣の出て行ったところに新たに来た艇が入る時に CAVOK5 の予備のアンカーロープに絡んでトラブルがあったそうだ。幸い近くの艇の人が潜って解消してくれていた。風も収まったので予備のアンカーをテンダーで正田さんと揚げる。

大事でなく助かる。

お昼のお蕎麦を頂いてからテンダーに 4 人乗ってモネンヴァシアの城塞のある海水浴場に行って泳ぐ。悦子と正田さんは要塞内の見学に行ってから泳ぐ。

海水浴場に行くときはまだ白波がたっていてしぶきを浴びながらであった。

帰り悦子と正田さんはスーパーマーケットで買い物をして帰る。

私と翔君はテンダーで先に帰り塩出ししておいた予備のアンカーとロープを収納したり、テンダーをデッキに乗せたりした。

ひと汗かいた後シャワーを浴びる。風があるのでシャワーの後は涼しくて気持ち良い。

夕方ハッピーアワーをしてから夕食にサラダとハンバーグを頂く。冷凍のハンバーグだったがソースの味が良く美味しく頂いた。

風が北東から南に代わった。

食後心地よい夜風を浴びる。

8 月 6 日 (月) Monemvasia~Elafonisos(Frangos) 31 NM 快晴 北東 15 ノット

昨日から風が治まってきたので今日出港することにした。

朝食後 08:05 にアンカーを揚げる。2 時間ほど風が無く機走したがその後北東から良い風が吹きフリーで快走する。20 ノットプラスの追い風を受けたときは 9 ノットを記録する。

昨日までの風が治まったせいか行き交う艇が多い。

岬を越えてエラフォニイソス島の入り江の一つフランゴスに 13:10 にアンカーを打つ。

7m 水深の砂の底に打つがバックをかけるとずるずる走錨する。もう一度打ち直そうかと思っただけでその前にと再度バックをかけてみたら今度は効いているので更に伸ばして 40m にしておく。翔君、悦子が確認に行くとしっかりアンカーは砂地に食い込んでいるとの事だった。

砂浜の綺麗な海岸線と海も底が白い砂地のせいで青の色の変化が見事だ。

10 艇以上のヨット、モータークルザーが既に錨泊していた。

翔君と海岸迄泳いで行くが透明度が高く気持ち良い。海岸に上陸してから丘に登って入り江を眺めるが海の色が素晴らしく美しい。写真をたくさん撮る。



艇に戻ってから冷やし稲庭うどんをビールで頂く。翔君は稲庭うどんの大食いをした。食後は南に代わった風を浴びながらうたた寝をする。

起きたら皆さん泳いでいる。翔君は浜まで泳いで行ったというので私も翔君見がてら浜まで泳ぐ。彼は砂遊びをしていた。私を寝かして砂を体にかけてくれたりして遊んだ。

時計を見ると 19 時近くになっていたのので艇に戻る。日没が遅いので時間を忘れる。

北東から南の風に代わったのでアンカーの効きが心配で見えるがアンカーはそのままでの位置でチェーンの重さで艇を支えていた。

ポロねぎのアヒージョ、チーズ、タラモ、オリーブでアペリティフを楽しんだ後、野菜サラダと鶏肉のソテーを白ワインで頂く。鶏肉がさっぱりして美味しい。

ポーランド人の艇が 20 時過ぎに隣にアンカーを打った。子供達も多く一緒に泳ごうと翔君が誘われたが夕食時だったので残念ながら遠慮した。

この入り江は南に開いているので南風に代わり多少の揺れがあるが翔君はノートを開いて日課の学習をする。但しあっという間に学習は終わる

日よけのビニトップを開いて星空を見ながら夜を過ごす。

8 月 7 日 (火) Elafonisos~Kagio 25NM 快晴 北 12 ノット

朝食後翔君は隣に停泊していたポーランド艇に行って同じ歳ぐらいの子供と一緒に浜まで泳いでいく。彼から後で聞くと 12 歳だったそう。言葉も通じない中、子供同士のコミ

ユニケーションは早い。

彼が戻った後、09:45にアンカーを揚げる。入り江を出ると北からのクローズドリーチになる良い風が吹いていたので直ぐセーリングに移る。12ノット前後の風の中6,7ノットで気持ち良いセーリングを楽しむ。

今日は25NMの短い距離なので14時には着くのでお昼は着いてからにする。

モネンヴァシアでマグロを分けてくれたデンマーク人からメールが入り今日も連れてたとの事だった。

明日我々の行くMethoniに彼らも明日行くとの事で明日の晩にお寿司は如何かなと誘いが来た。楽しみが増えた。

カイオーの入り江は全く外からは見えない。GPSチャートが助かる。流石海賊の基地にもなった処だ。

意外と停泊している艇が少なく迷うことなく7.5mの砂地にアンカーを降ろす。固い砂でアンカーの食い込みが悪く、20m伸ばしたところでバックをかけるとずるずるアンカーを引きずってしまう。40m迄伸ばしてバックをかけるとアンカーがしっかり効いた。

翔君の仕事で泳いでみてくれる。OKだ。

海岸まで泳いで小道を丘まで登り入り江を一望する。海の色が景色を引き立てその中にヨットが停泊していて素晴らしい眺めだ。

反対側の丘の中腹に小さな村がある。どんなところでも人は住んでいる。

ここは小さな漁村だったがヨットレジャーのお陰で潤ってきたとの事だった。

夕食は3軒あるタベルナの中の1軒を選んで食べることにする。

翔君は浜辺で子供達と長々と遊んでいた。

未だ陽が高い19時過ぎにテンダーで食事に出かけるが浜から突き出したタベルナの小さな栈橋におばさんがここに着けなさいと呼び込んでくれる。先程下調べておいたタベルナで感じ良く魚も美味しそうだったのでそこに着ける。

PCの充電を頼んでから岬の先の高台に小道を歩いて登る。上から見る入り江は美しい青の色の海に静かに浮かぶヨットと美しい景観を醸し出していた。

素敵なおばさんのいるタベルナでグreekサラダ、トマト、胡瓜、オニオンサラダ、グリルドオクトパス、カラマリリングそしてパンドラ(鯛に似た魚)のグリルを食べる。すべてフレッシュで美味しい味だったがパンドラは適当な脂があって中々の味だった。

静かな海をテンダーで艇に戻りオンザロックを飲みながら星空を楽しんだ。

8月8日(水) Kagio~Methoni 50NM 晴れ 微風~西順風

起きて直ぐ出港準備して07:00にアンカーを揚げる。今日も静かな海だ。早朝出港の習いで出港してから朝食を頂く。

風が弱く機帆走する。途中2時間ほど横からの良い風を受けて帆走する。地中海で帆走していると強い風が吹いても海面がフラットなので快適なセーリングになる。

お昼に中身にたっぷりのサンドイッチをビールで頂く。

デンマークの彼に作ってもらった仕掛けでトローリングするが中々釣れない。今日も坊主だった。

彼から再度メッセージが入りメットーネで待っているとの事だった。

16:00に馴染みのメットーネの入り江にアンカーを打つ。いつも通り翔君がアンカーをチェックしに行く。彼から完全ではないとのサインだった。アンカーチェーンを伸ばしてバックをかけて再度チェックしてアンカーの食い込みを確認した。水深7mの砂地に35mのチェーンを伸ばす。今夜は風も吹かないので安全なチェーンの長さだ。

テンダーを降ろして上陸してヴェネチア、オスマントルコと続いた城塞を見に行く。ペロポネソス半島の南西の岬のメットーネは歴史上重要な貿易船の中継点だった。“夏草や兵どもが夢の後”でないが、城塞から見る海が穏やかで海の色が奇麗で正に当時の夢の後を感じた。

彼らを20時に招待していたので悦子はマグロの握り寿司、巻きずしを準備する。

彼と奥さんのマリアンナがパン種を持って来た。

マリアンナは、お魚は駄目で食べなかったが全部売り切れた。

デザートに柳澤さんから頂いたチョコレートをコーヒーで頂いてお開きにする。

好感の持てる二人だった。

天の川が奇麗に見える夜だった。

8月9日(木) Methoni~Katakolon 54NM 快晴 微風後北西 15~20 ノット

予定ではイオニア海の孤島 Strotadi 島に錨泊を予定していたが錨泊中の風が若干強そうなので諦めてオリμπアの近くにあるカタコロンを目指す事にした。

07:30にアンカーを揚げる。隣のデンマーク艇 Rasmus が先に出て行く。

朝食はいつもの早朝出港の様に港を出てから頂く。海に出た後の朝のコーヒーがいつも美味しい。ちょっとしたことで幸せを感じる。

2時間ほど機走した後北東の良い風が吹き出し帆走する。途中風があり暫く漂うがその時 Rasmus がドローンを飛ばして CAVOK 5 を訪問してくる。風の後風が北西に代わり 12~15 ノット吹くが生憎と登り切れない風だったが快調に 6 ノットの速度をキープする。

お昼はみそ汁とマグロの漬け丼を頂く。Rasmus から頂いたマグロが大量に冷蔵庫にある。キハダマグロだったが漬けて食べると美味しかった。

約5時間 12~20 ノット近い風を受けて快走するが吹いてくる方向が迎え風でコースを取れない。風の振れを期待したが振れることなく最後 2 時間は機帆走で角度を稼いだ。

後ろになった Rasmus の艇もカタコロン入港時は直ぐ後ろに来た。

ここカタコロンはオリμπアの見学コースで今回も 2 隻大型クルーズシップが停泊していた。丁度クルーズシップの出港と重なりクルーズシップの方向転換中にその脇をすれすれに抜けて港に入る。

18:10 にアンカーを打って檣付けする。前もって入港前にマリーナに電話しておいたが珍しく係員が来ていて舳れを取ってくれた。

直ぐ後に Rasmus の艇も付く。

錨泊が続いたのでデッキを洗った後皆さん洗濯をする。この港は電源、水道を使いキャンプカーが泊まっていて陸、海が共存する形で面白い。

ひと働きしてハッピーアワーを楽しむ。さっき迄吹いていた風が嘘のように治まり穏やかな夕暮れになる。

夕食は頂いたマグロをソテーにして頂くが中身は生でニンニクの味付けが食欲を誘ってくれ美味しく頂いた。

食後 Rasmus がドローンから撮った写真を見せに来てくれた。

翔君のデザート・アイスクリームを買いに町を二人で歩くがとっても賑やかだった。

Rasmus のお陰で毎食マグロを頂いている。

8月10日（金）Katakolon 快晴 順風

朝食後レンタカーを借りに行く。オリンピア遺跡とミケーネ遺跡の見学予定だ。

私と悦子は、オリンピア遺跡は3回目の見学になる。

カタコロンからは、車で、30分で行けるところにある。古代オリンピックは紀元前776年に争いをやめ競技会を復活せよというアポロンの啓示を受けたことに由来して始まったと言われている。その後394年にローマ帝国皇帝テオドシウス1世の異教神殿破壊令により廃止された。

元々オリンピアはゼウス神の聖地であった。オリンピア遺跡の中に入るとヘラ神殿が直ぐ目に入る。ここはオリンピック聖火の採火が行われるところだ。続いてゼウス神殿がある。当時はアテネのパルテノン神殿に匹敵する壮大な神殿だったそうだ。

競技場のトラックは幅30m、長さ192mでローマ時代は2万人の収容の観客席があったと言われている。

2004年のギリシャオリンピック大会ではこの競技場は砲丸投げの会場として使われたそうだ。その他にも多数の遺跡が並んでいた。

オリンピア考古学博物館には新石器時代から古代オリンピックに至る迄の遺跡が展示されていた。

彫刻やモザイクや女神ニケの像はじめ当時の芸術の傑作が展示されている。

炎天下の見学なので博物館の前の茶屋で喉を潤おす。その後ワイン発祥の地のギリシャのワイナリーを訪ねるのが楽しみだったのでインターネットでワイナリーを探して“Olympia Land Estate”ワイナリーを訪問する。古来ギリシャ特産のブドウで取れた白ワイン、ロゼワインを購入する。さっぱりした感じの飲みやすいワインだった。そこでタベルナの美味しい所を聞いて行く。ここが大当たりで郊外の丘の上にあり、ブドウ畑を見渡せる景観の良いプチホテル“Bachas”のタベルナでグreekサラダ、ポークステーキ、ラム

チョップを食べる。これまた美味しく嬉しくなった。

オリンピアの後ミケーネ遺跡見学予定であったが、ここから 2 時間はかかるので諦めてスーパーマーケットで明日からの食料の買い物をして帰る。

翔君と戻ってから海水浴場に行って泳ぐが鍋のような大きなクラゲが出没していた。

夕食は野菜サラダ、ビーフのひき肉、タマネギ炒めと茹で卵のみじん切りのフランス風ドライカレーを今日仕入れたロゼワインで頂く。このドライカレーは定番だが美味しい。

ギリシャ特産ロゼも当たりであった。

ビニトップを取って日暮れと共に変わる青の空を見ながらの夕食は一層食欲を誘ってくれた。

食後翔君も勉強を頑張ったのでデザートにアイスクリームを食べに行く。

翔君はコックピットで寝る。

8月11日(土) Katakolon~Zakynthos(Keni) 24NM 快晴 微風

朝食後 9 時にレンタカーを返す。時間が無くてミケーネ迄行けなかったと云ったら気のいいおばちゃんが 45€から 40€にまけてくれた。

09:35 に舳いを解きアンカーを揚げて出港する。もやいローブを整理している最中に正田さんが後ろに差してあるトローリングの釣り針を手で差してしまった。大物用の釣り針なので返しも大きい。返しまで食い込んでしまったので大変痛い思いをして釣り針を抜いた。

新しくしたルアーの仕舞い方に問題があったので早速釣り針が手にかからない場所に移動した。

途中 2 時間弱良い風が吹いてくれてセーリング出来たがそれ以外は風が無く機走した。

地中海ではよくあるパターンだ。

ザキントス島の南にある錨泊地 Keri の砂地の 3.9m の深さのところにアンカーを打つ。

翔君が早速アンカーチェックに行き OK サインが出た。後で見るとアンカーが若干浅い食い込みだったのでチェーンを 35m に伸ばす。

海岸まで遠浅になった砂地でアンカーが何処にでも打てる。10 艇程アンカーリングしていたが夕方には 20 艇程になっていた。

お昼にソーセージと野菜の中身のサンドイッチを食べる。

私はキャビンで入ってくる心地よい風を子守歌に午睡する。翔君はこの間海岸まで泳いで行って遊んでいたそうだ。

私も夕方泳いで翔君と海岸まで行ってアイスクリームを翔君にご馳走する。

ビール、ジン、レモンと砂糖を氷でガンガン冷やしたカクテル・ブルを穏やかな日暮れ時に楽しむ。夕食は野菜サラダ、マグロのカツカレーを頂く。Rasmus から頂いたマグロを美味しく寿司、漬けそしてカツと頂いている。

翔君が食欲ないので体を触ってみると熱い。体温計で計ると 38 度あった。頭痛もすると

いう事で体を冷やして薬を飲ませて休まず。日射病かと心配したが連日コックピットの外気の下で寝ていたので寝冷えの可能性が強いと思い風邪薬を飲まず。

ここも静かな錨泊地で夜長を楽しんでやすむ。

8月12日(日) Zakynthos(Keri)~Zakinyhos 15NM 快晴 微風後順風

朝翔君の熱を見ると38.7度あったので熱さましの薬を飲ませて氷で頭を冷やして休まず。

今日は慶応高校が高知商業を相手に夏の選抜の2回戦の日だ。此方でもインターネットで中継が見られる。予定では4試合目になる。此方の時間で10:30試合開始であったが前の試合の広陵高校対済美高校の試合が激戦で延長戦に入り延長13回裏劇的な済美高校の逆転満塁ホームランで終わった後の慶応の試合で開始が1時間程遅れて11:30になる。

広陵対済美の試合は艇で見ていたがルーターの容量がオーバーしたためテnderを降ろして浜に行きタベルナで見る。

初回は良かったが2回に入り、私が翔君にアイスクリームを買って艇に一時戻った間に一挙に7点入れられて逆転されていた。

お昼は正田さんとここで軽食を食べる。その後も慶応の形勢が不利なのとザキントスの港に入るのが遅くなつてはいけないので途中で応援を諦め艇に戻り12:50にアンカーを揚げる。

15NM先の本港なので15:50に舫う。ここは北東側の岸壁は電気、水道があるが北西側の岸壁には水道しかない。幸い北東側に空きがあったので其処に入れようとする Yacht Servis Zakintos のスタッフが別の場所を指示してくれ、其処にアンカーを打つてのスターン着けする。

今回は繫留料が上がって一日50€との事だった。去年は30€だったと云ったらマリーナの改善の為に値上げしたとの事だった。レイドラインもないのにちょっと高い。

おまけに艇による汚染に対する保険に入っているかと保険の証書を調べる。其処まで詳しく記載されていなかったので保険会社に確認するよう言われる。初めての経験だった。

早速インターネットでオランダの保険会社に連絡を入れる。今日は日曜日なので明日月曜日に返事が来ると思う。

翔君の熱が下がってきて食欲も出て梅干しとご飯、みそ汁を食べる。一安心だが明日一日休養することにする。

港の堤防の外が海水浴場になっているので泳ぐ。

ここはシャワーがあるので正田さんと一緒にシャワーを浴びる。久しぶりにゆっくりシャワーを浴びて体の垢を落とす。

港の堤防にタベルナがあり悦子と待ち合わせしてシャワー帰りに夕食を食べる。

このタベルナは2年前岩崎さんと柴崎さんと来た時良く寄った処で皆さんお気に入り場所でもあった。お店のマダムが覚えてくれていた。

外のテラスで海風が心地良い。生ビールで喉を潤おした後、グreekサラダ、カラマリ

フライ、グリルドサーディンの軽い夕食を白のハウスワインで食べる。

シャワー帰りの心地よい夕食だった。

静かな港でゆっくり休みにつく

8月13日(月) Zakinyhos 快晴 微風

今日も朝目を覚ますと天窓から青空が気持ちよく見える。

翔君の休養のため今日は何もしない休養日にする。

港の対岸でマーケットがあるのでテンダーで行く。野菜だけのマーケットだったが新鮮な野菜と果物を買う。イチジクが旬で美味しい。

お昼はみそ汁とご飯にマグロの角煮、塩昆布で頂く。

翔君が熱も下がりシャワーを浴びたいという事で浴びに付き合う。彼がシャワー浴びている間埠頭の先にあるタベルナでフラッペを飲む。

丁度 Wind (ギリシャのモバイルキャリア) 期限が切れたのでボーダフォンに替えるためボーダフォンのショップに行き SIM カードを買うが今まで持っていたインターネットキーが使えないとの事で WIFI タイプの機器も購入する。

SIM カードはサービス期間中で、1 か月間 12 ギガバイトで 20€で、機器は 50€だった。

今日も堤防の外で気持ち良く 30 分泳ぐ。

明日観光船で難破船のある綺麗な海岸と青の洞窟等を廻ることにしているのでチケットを購入して置く。

ブルでハッピーアワーをした後、夕食は今日購入した新玉ネギのスライとトマト、胡瓜、レタス、ブッコラのサラダ、そしてツナのスパゲッティを今日買った白ワインで頂く。

ツナのスパゲッティがアルデンテで美味しかった。

今日も食後団らんで夜空の星を見ながらぺちやくちやおしゃべりをする。夜風が心地よい。

8月14日(火) Zakinthos 晴れ後快晴 微風

朝食後 8:30 に観光船の乗り場に行く。乗り場は CAVOK5 の停泊している埠頭で直ぐ近くにある。今日の観光船はシップレックビーチと青の洞窟を廻る 4 時間のコースの観光船だ。一番上のデッキに席を取る。珍しく雲があり、時折日差しを遮ってくれる。16 ノットで走る観光船での風が心地良くデッキの上でも暑さを感じない。

1 時間半ほどでシップレックビーチに着く。白く直立に聳え立つ岩壁の下に真っ白な砂浜があり空の青と海の青のコントラストが見事だ。観光船やプライベートの船が集まり又砂浜には大勢の人が海水浴をしていた。

ここも 3, 4 回来たところだが今日が一番混雑していた。

1 時間程滞在した後青の洞窟に行き、クリスタルウオターの海で泳ぐ。

13 時過ぎに港に戻る。お昼にソーメンを頂いてから各々泳いだり昼寝したりする。

沖合に真っ白なクルーズシップが停まっている。水が奇麗で海岸の海の色から沖合の海の色へとそしてクルーズシップと絵葉書のような光景だった。

夕方ブルでハッピーアワーが始まり、ブルを飲みながらポークのスマークとアンチョビの酢漬けのピンチョスを頂くがオニオンも載っていて美味しく頂く。食事前に胡瓜、ニンジン丸ごと、味噌をつけて食べる。

夕食はご飯と塩昆布、梅干、マグロの角煮で済ます。

明日イタキ島の錨泊地に行くので水タンクをいっぱいしておく。

翔君も元気になって今日は一日遊んだ。

8月15日(水) Zakynthos~Ithaki (Pigadhi) 35NM 晴れ 微風

隣はオーストリア人夫婦が乗って居てご主人はUSA 日立で働いていたそう。結構日本関係の企業で働いている外国人とも会う。

朝食後 8 時にアンカーを揚げる。今日も静かな海だ。天気、風に恵まれ順調な航海が続けられている。

昨日観光船で廻ったザキントス島を左手に見ながら真っすぐイタキ島に向かう。イタキ島はトロイ戦争で活躍したギリシャの英雄オデッセイウスの故郷になる。

風は微風で全行程機帆走になる。お昼はチャーハンを頂くが海での 3 食はとっても美味しく頂ける。

14:30 にイタキ島の錨泊地ピガーデイに着く。ここは岸から急に深くなっているのと底地が岩と砂で打つポイントが難しい。1 回目は水深 10 m のところに打ったが効かなかったので再度打ち直す。2 回目は小さな島と本島との狭い海峡の水深 4 m に打つ。船尾から岩壁に舳を取り艇が振れないようにする。アンカーを泳いで見に行くと岩の上でしっかり効いていないのでアンカーを動かして岩にかかる位置にずらした。

とても綺麗な泊地で海の透明度は素晴らしく高い。海底の種類によって海の色も変わり絵のような色彩だ。



多数の艇が錨泊している。

皆で泳ぐ。泳いだ後はハッピーアワーになる。冷えた白ワインが美味しい。

今晚は正田さんが腕を振るって夕食を作る。野菜とツナを使ったスパゲッティ、これがアルデンテで野菜の味が良く出ていてツナとの相性も良く美味しく頂く。そしてトマト、レタ

ス、オニオンの豆腐のサラダを頂く。中々正田さんは料理が上手だ。

食後はオンザロックを飲みながら夜空を楽しむ。満天の星空の中を天の川が大河の様に流れていた。

今日も幸せな一日だった。

8月16日(木) Ithaki (Pigadhi)~Kefallinia (Efimia) 10NM 朝雷雨、突風、日中曇り

朝 8 時に悦子に起こされる。アンカーがしっかり岩に噛んでいてスターンを岩壁の岩に結んでいるので安心して寝ていたが予想外のサンダーストームが被ってきて大雨と突風になっている。隣の艇が走錨し始めて CAVOK5 に近づいてきている。隣の艇は岩からのロープを離してアンカーを揚げて沖に出て行った。

暫く CAVOK5 の様子を見たが問題なくサンダーストームも抜けて行った。

風が治まってくるのを待って翔君と泳いで岩迄行き岩からのロープを行ってこいにして出る際泳がないでも舳いを解けるようにしておいた。

11:10 にアンカーを揚げる。岩に噛んでいたのがアンカーが揚がるのを心配していたが問題なく上がった。近くが岩場なので手こずるのが嫌だと思ってアンカーを揚げやすくするためアンカーの先にロープを結んでおいたがなかった。

サンダーstormが上がった海面には沢山のヨットが出てきていた。

ケファロニア島のエフミイアの港はチャーターヨットの基地でもあり繫留場所を確保するのが難しい。案の定VHFで連絡すると埠頭はいっぱいで舫う事は出来ないとの事で港内に13:10にアンカーリングする。10艇以上アンカーリングしていた。実は前もいっぱい同じようにアンカーリングをして翌日繫留した経験があるので早い時間に入ったがいっぱいだった。明日10時にVHFで埠頭が空いているか確認して欲しいとの事だった。

潜ってみるとアンカーが横になっていて半分しか砂地に食い込んでいないので真っすぐ立てて再度後進をかけてアンカーを効かした。



テンダーで岸に上がりタベルナで一杯飲む。夜ここのタベルナ (Steki) でギリシャ音楽の生演奏があるという事で20時に良い場所のテーブルを予約しておく。

夕方タベルナに行く。注文を取る時、生演奏のある時は特別にポークの丸焼きがあるとい

う事だったので、グreekサラダ、ミックスサラダ、アンチョビの酢漬けとサバのグリルを頼む。ポークの丸焼きは皮がパリパリで身も適当な脂がありとっても美味しかった。

生ビール、白ワイン、赤ワインを楽しむ。

22 時過ぎに艇に戻るが涼しい夜でタオルケットが必要だった。

8 月 17 日（金）Kefallinia（Efimia）快晴 微風

朝食後 9 時過ぎに VHF でマリナーを呼び出して出て行った艇の後に入れて良いか聞くともう少し待てとの返事だった。テンドーで上陸して許可を待っていると 10 時前 1 日だけの繋留なら OK との返事をもらい艇に戻りアンカー打っての檣付けをする。チャーター艇が次々出て行く。

舫ってから早速水でデッキを洗う。電位器具の充電も行う。お昼に冷やしラーメンをビールで頂く。

レンタカーを借りて島内見学をしようと思い 2 軒あたるが生憎空きがない。船具屋さん聞くともう一軒あるという事でそこに行ったら幸いあった。小さなサイズで一日 50€ だった。

早速白い砂浜と青の海の色が綺麗なイオニア海で最も美しいビーチの一つと云われているミルトスピーチに行く。大混雑で駐車を坂の上の方にする。

海岸線はビーチパラソルで埋まっていた。



泳いだ後島の中心街アルゴストリに行く。ここにボーダフォンショップがあるので先日購入した SIM カードが上手く働かなかったのを見てもらうが直ぐ直ってしまった。スタッフが SIM カードを出し入れしただけで直り原因不明だった。

艇に戻ってコインランドリーで洗濯をした後、水道からの水で体を洗うが十二分に水が

使えて気持ち良かった。シャワーの後はレモンとビールとジンのブルで喉を潤おす。夕食に鶏肉のグリルを頂く。柔らかく美味しく頂いた。

8月18日(土) Kefalonia(Efimia) 快晴 微風

正田さんが昨年ここで知り会ったイタリア人の女性ダイアナさんと待ち合わせを17日にしていたが彼女の乗って居る艇が今日の朝到着という事で彼は艇で彼女の到着を待つ。

悦子と翔はメリッサニ洞窟を見学に行く。洞窟の天井に開いた穴から差し込む光が澄んだターコイズブルーの海面を照らし幻想的な空間を作り出している。

前は長蛇の列で見る事が出来なかったが今回は午前中の早い時間でもあり並ぶことなく観光できた。

正田さんはダイアナさんと面会出来た。

13時までにここの繫留場所を空けなければいけないのでひと泳ぎして水を浴びて電気器具の充電を終わらせお昼用にタベルナでポークのギロス(ケバブ)をテイクアウトする。

ここの場所は今日14艇程チャーター艇が入るそうだ。レンタカーを返して12時過ぎに艇いを解きアンカーを揚げて港内にアンカーリングする。

かえってアンカーリングの方が静かで落ち着く。

夕食は一昨日行ったタベルナでダイアナさんと呼んで一緒に食事をする。イタリア人で英語の先生をしていて毎年1か月ここで仲間とチャーターヨットをレンタルして楽しんでるそうだ。息子さんが秋に結婚との事で楽しみにしているとの事だった。とっても感じの良い上品な女性だった。

食事はグreekサラダ、酢漬けアンチョビ、一昨日美味しかったポークのグリル、シー・ブリームのグリル、プローンのグリルをシェして食べる。ここのレストランのシェフが簡潔明瞭に料理を説明してくれる。いずれも美味しかった。

テnderで艇に戻ってから翔君とブラックジャックを遊んで寝る。風のある涼しい夜だった。

8月19日(日) Kefalonia~Levkas(Sivota) 22NM

今日は距離が短いので朝食を済まして08:55にアンカーを揚げる。

ケファロニア島とイタキ島の間を抜けてレフカス島に向かう。一時良い風が吹いてセーリングに移ったが1時間も続かなかった。

お昼にビールでサンドイッチを頂いた後シボウタの入り江に入る。ここも人気の場所で多数のヨットが来ている。いくつもの埠頭やポンツーンがあるが入り江に入って最初にあったポンツーンに13:30着ける。レイドラインも電気、水もあり一日35€だった。ここも夕方にはいっぱいになった。

翔君の運転のテnderで入り江の入り口の方に行き、岩場に小さな棚があって海水浴が出来るとの場所まで行く。先着者がいて、彼が昨年ザキントスで我々と会ったと話してく

れた。その時も孫と一緒にだったと覚えていてくれた。結構他の艇の人達と再会することが多い。

ほとんどヨット、モーターボートで占められている格好の泊地であった。夏休みなので家族連れや仲間での集団が多くいた。

ブルを飲んだ後に夕食を野菜サラダとポークカレーを頂く。

翔君がブラックジャックに凝って今晚もトランプで遊んでから休む。

8月20日(月) Levkas~Paxoi(Gaieos) 50NM 快晴 順風

今日は50NMと距離があるので早出にする。朝6時に起きるがまだ暗い。悦子が朝食の用意をしてから06:40に舳を解く。日の出は7時ちょっと前だった。朝食のみそ汁とお握りを頂きながらレフカス島の南端を通過する。

9時過ぎから東からの順風が吹き出しセーリング移る。横からの風は20ノット近くまで上がり艇速は7ノット以上出る。ブローも入ってきたのでメインを3ポイント迄リーフする。それで7ノットはキープして快調だ。その後ジブもリーフするが速度は変わらないで維持した。

この風は3時間位続いたがお昼過ぎに弱くなってしまった。お昼にトマトソースのパスタをビールで頂く。

パクシー島の最初予定していた泊地のMongonisを覗くが狭い入り江にアンカーリングの艇がいっぱいだったので次の1NM先のGaieosの泊地に行く。ここは埠頭に舳うことが出来るがこのシーズン空繫留場所を見つけるのが難しいので入り口にあるアンカーレッジにアンカーを打つ。7Mの底地に打ったがアンカーが効かないので再度打ち直す。

翔君と潜ってみるとアンカーが岩の間に落ちている。岩から外れそうもないので良しとする。

ここも夕方には20艇以上アンカーリングになっていた。

艇のデッキでシャワーを浴びてブルでハッピーアワーをする。至福な時間だ。

夕食はマーボ豆腐かけごはんを頂いた。

群青色の空には段々丸くなってきた月が奇麗に浮かんでいた。夜風が心地よい夜を錨泊で楽しんでいたら21時過ぎより東の空に雷雲が出来て風が強くなり波も出てきた。

前方のヨットが走錨を始めてCAVOK5に近づいてきた。乗員は食事にテンダーで出かけているようでない。1艇身近くなったのでこちらのアンカーを伸ばす。テンダーも降ろして緊急時の準備をしておく。幸いに22時過ぎに乗員がテンダーで戻ってきたので走錨の旨伝える。波があるのでテンダーからの乗船に苦労していた。彼らはアンカーを揚げて別の場所へ移動して一難去る。その他の艇もアンカーを打ち換えたりしていた。幸いにCAVOK5は明るいうちにアンカーチェックをしておいて効きを確認しておいたので走錨の心配はなかったが、逆に岩にチェーンが絡んでいたのが揚げるときの心配だった。

夜中の1時過ぎまで正田さんと様子を見ていたが落ち着いたようなのでベッドにもぐる。

8月21日(火) Paxios~Paxios(Gaios)快晴 微風

昨晚が遅くなったので8時過ぎまで寝てしまう。朝食後パクシーの港が空いていれば繋留するという事でアンカーを揚げにかかる。若干手こずって前後に艇を移動さすが9:40に無事アンカーが揚がり、狭くて水深が最小2mという水門を抜けて港に入る。幸い出て行く艇があり其処にアンカーを打って9:55に舳うが隣にいた艇がアンカー交差を気にしてあれこれうるさかった。お互いさまと言っといた。

別隣りとの艇とのチェーン交差が心配なので潜ってみるが交差している。テnderを降ろして正田さんと翔君に手伝ってもらいアンカーにロープを舳い揚げてテnderでずらして打ち換えた。交差は解除された。

早速水を浴びる。お昼にお蕎麦を頂く。食休みの後近くの海水浴場で翔君と泳ぐ。彼は潜りも上手になり自由自在に泳いでいる。

日本の国旗を左舷に揚げた艇が入ってきたので日本人がいますか?と確認したところ日本人でなく日本大好きのお嬢さんが乗って居る艇だった。彼らはトルコ人の家族で日本にも何回か来ていて皆さん日本が好きだそうだ。

ボードフォンのインターネットが繋がらないのでコーヒーショップのおじさんに聞いて行くがこの島はボードフォンの受信が良くないという事で片付けられた。

トルコ人の艇から翔君を自邸に誘って良いかと丁寧に親が聞きに来てくれた。彼らはイスタンブールに住んでいてこの6年間イオニア海でヨットをチャーターして夏休みを過ごしているとの事だった。二組の家族で翔君と同じ年位の子と年下の子供が計4名いた。

楽しく翔君が遊んでいたようで今度は食事に翔君を誘って良いかと聞きに来てくれた。

勿論よろしく願いした。23時過ぎに皆さん一緒に帰って来て翔君も上機嫌で楽しかった様で興奮気味だった。

孫を誘ってくれたトルコ人の Yener さんに感謝する。



8月22日(水) Paxoi~Erikoussa 52NM 快晴 微風、一時順風

07:00にアンカーを揚げる。両サイドの艇共交差することなくスムーズに上がる。

湾を出てから日の出とともに朝食を頂く。

静かな海面だが風もない。幸いに弱い風ながら斜め後ろからの風だったので機帆走で6ノット以上出る。

コルフ島を左手に見ながら島の景色を見ながら行く。お昼にマイタケご飯を御味噌汁で頂く。

13時過ぎから西からの8ノット前後の風が吹き出し約3時間5ノット強の速度でセーリングを楽しめた。

16時前に見慣れたエリコウサ島に着くが昨年工事中だったマリーナが完成されていて多数のヨットが繋留されていた。錨泊を予定していたが繋留に替えて16:10舫う。スタッフが来てくれもやいを取ってくれた。レイドラインも水、電気、トイレ、シャワーもあり立派

なマリーナになっていた。オフィスに行って手続きをする。2日分で69€だった。

早速サンドロの家に行き再会をする。又昨年ここでお会いした2組の夫婦も丁度サンドロのホテルに泊まっていて再会を祝す。何と明日は寿司デイと決まっていたそうだ。

今晚はサンドロが夕食に招待してくれた。

翔君とここのカヌーとスタンドアップパドリングボードを借りて遊ぶがスタンドアップパドリングボードは難しくまともに立てなかった。

久しぶりにシャワールームで全身気持ち良く洗う。

21時から夕食に招待を受けていたので行く。久しぶりのダイナーコースでイタリアンを頂く。前のコックさんと変わり新しいコックさんになっていた。

テーブルはサンドロ夫妻、昨年一緒だったイタリア人のアリチェ夫妻と同じ席にしてくれた。

外のテラスのテーブルで月夜の中、そよ風が心地良い中の食事だった。

オードブルをイタリア・プーリア産白ワイン頂いた後ガーリックの効いたアーモンドスープから始まり上品に飾った野菜サラダ、ラビオリ、カジキマグロのソテーを美味しく頂く。

デザートはチョコレート味のアイスクリームを頂く。食後は日本のウイスキーを飲みながら夜を楽しんだ。

このところ毎年サンドロ夫妻と会って親交を深めている。サンドロは77歳だが兄弟の様に私とお付き合いしてくれている。

8月23日(木) Erikoussa~Othoni~Erkoussa 快晴 微風

サンドロの艇と一緒にOthoni島のカリプソ海岸に行く。10:50に舫いを解き彼らの艇の後をつけて行く。サンドラの艇に彼は乗らず雇っているスキッパーとゲストが乗って

いる。約10NM 先のカリプソ海岸に2時間弱で着いて12m位の底にアンカーを打つ。

素晴らしく海の透明度が良く12mに打ったアンカーもはっきり見える。何とも言えない青の海がきれいだ。岸まで泳いで体で綺麗な海を味わう



10艇程の艇がアンカーリングしているが混雑という感じでなく隠れた素敵なスポットだ。翔君は泳ぎまくっている。

お昼にソーメンを頂く。15時前にアンカーを揚げて帰りマリーナに16:40 舫う。

今日の夕食は悦子が刺身とお寿司を作ることになっている。

サンドロの車を借りて18時に悦子をホテルに送る。悦子はホテルの厨房に入りシェフのテオさんとコックさんと一緒に料理を始める。寿司飯を艇で炊いて行ったがゲスト入れて

21人分という事でとても寿司飯が間に合わず一人2~4貫の配分になる。お刺身は、10kgはあるクエと鯛科の魚であったが久しぶりに美味しいお刺身を頂いた。21人分のお刺身とお寿司を握ってくれた悦子にサンドロとフランカから感謝される。

我々も大変ご馳走になり車で送ってもらい艇に24時過ぎに戻る。

8月24日(金) Erikoussa 曇り 微風

予定では今日コルフ島のゲービアマリーナに入る予定であったが予約の段階で24日は繋留場所がいっぱいの事で取れなかったなのでここでマリーナを出て外で錨泊することにして予約の取れた25日に行くことにした。

午前中お昼まではマリナー内で過ごして昼食後出港して沖合水深 5 m にアンカーを打つ。ここは砂底のアンカーの打ち易い南風以外は安全な錨泊地だ。

翔君は先に海水浴場に行っていて後から泳いで艇に来た。

浜からアカンタ・ホテルのシェフのテラさんと彼の友人のソフィアさんが泳いで艇に来て私のボーダフォンがインターネットに繋がらなかったのをボーダフォンに電話して繋がるようにしてくれた。

アテネ在中のソフィアさんは美人の素敵な女性だった。

26 日に悦子、翔君、正田さんと帰国する予定であったが悦子は帰国しないで正田さんが翔君を連れて帰ってくれることになった。悦子は 1 週間ぐらいの帰国だったので疲れずに助かる。

正田さんには迷惑になるが快く引き受けてくれたのでお願いすることにした。

明日エリクサを離れるので夕方浜に上がり皆さんにサヨナラの挨拶をする。昨年と一緒にになった方も偶然にいて楽しい時を過ごした。

艇で BBQ をする予定であったが魚が手に入らなかったので諦めて簡単に味噌汁、ご飯。冷奴、ノリ、昆布で頂く。この冷奴の豆腐は 3 か月持つ保存食で味がとっても良い優れもので私の好物でもある。

風が南に代わりうねりも若干入るようになる。艇も揺れゆりかごの中での睡眠になった。

朝 5 時頃雨と共に雷鳴がなりだした。幸いに 8 時過ぎに雨が止んだのでアンカーを揚げてコルフ島グービアを目指す。

幸いその後は青空も覗くようになり、途中セーリングも挟み 14 時前にグービアマリナーに着いてガスステーションで 70L 軽油を入れてから無線でポンツーンへの案内を頼むと 16 時にならないとポンツーンが空かないのでそのころに又来るよう言われる。仕方ないのでアンカーリングの場所に行きアンカーを打って待つ。

待っていると東の空から大きな入道雲が接近してきた。被ると嫌だと思いながら 16 時前に再度グービアマリナーに入って VHF で呼ぶと直ぐ案内してくれた。

16:00 に舫った直ぐ後から雨が降り始め雷雨になった。絶妙なタイミングで舫えた。

雨が小降りになってから翔君はプールに泳ぎに行く。私と正田さんはオフィスでマリナーの手続きをする。暫く清掃等色々やることがあるので 5 泊居ることにした。5 泊で 375 € だった。ついでにレンタカーを二日間借りる。これは二日で 100€ だった。

早速城塞都市で有名なケルキラ旧市街地の観光に行く。最初要塞を見てから旧市街地を散策がてら翔君のお土産探しに付き合う。途中翔君ドクターフィッシュのお店で足を魚につつついてもらう。途中パクシー島でお友達になった Yener さんから連絡が入り良かったら食事を一緒にと誘ってくれる。お店も旧市街にある“REX”という店で私も 3 回ほど行ったことのあるお店で直ぐわかる。生憎とお客さんが多く別々のテーブルになる。

私はドライバーなので飲めないがお店のお薦めのコルフ産伝統の白ワインを二人は飲む。サラダは 2 種類、カラマリフライ、ラムの長時間グリル、ポークのスブラキを食べる。

評判のお店だけありラムも美味しくグリルされ、イカも新鮮で美味しかった。

Yenerさんは30年来の友達夫婦と二人の子供4人と来ている。食後一緒に飲みましょうと誘ってくれて別の店で赤ワインとコーヒーを飲む。

Yenerさんは洋服の輸出をしているそうで大の日本鼻根で日本に2回来ているとの事だった。彼らの小学生の子供たちは英語をきちんとしゃべる。日本も英語教育を早い時期からやるべきだと思う。

奥さん方が着物を着たいという事で明日CAVOK5に来て悦子に着せてもらうことになった。

艇に戻ってから翔君と正田さんは荷物造りをする。終わってから翔君のリクエストで、全員でトランプを楽しんでから1時過ぎに休む。

8月26日(日) Corfu 晴れ、雨、晴れ

11:25発のアテネ行きに乗るので食後9:20に空港に向かう。予定通り彼らは離陸して行った。正田さんには長い事翔君と付き合って頂き尚且つ帰国の道中まで面倒を見て頂き感謝している。

艇に戻ってくる途中から雨がパラと降ってきた。今日も早くから雷雲が発生してそこからの通り雨のようだ。慌てて帰り干しておいたソファを取り込む。

Yenerさんから連絡があり雨が激しくなりタクシーも拾えないので行けないとの連絡をもらう。会えなくて残念だがこの雨では仕方ない。

お昼はマリナー内のタベルナに行きビールとシーフードサラダ、シザーサラダを食べる。一人で一皿サラダを食べると結構お腹がいっぱいになる。

午後になると雷雲も去って太陽が出てきたので濡れたソファ等を干す。この3日間毎日雷雲が一時的に被ってきて雨を降らすので干すのが日課のようだ。

シーツ等の洗濯を出しに行ったら日曜日でランドリーが休みで明日にする。

今晚は悦子に休んで貰おうと思って外食も止めて私が夕食を作ることにした。生憎と大きなスーパーマーケットが休みでマリナー内のミニマーケットで当面の野菜、果物そして冷凍の鶏肉を買って総菜の材料にする。

得意の健康料理で蒸鍋に玉ねぎを下に敷いてその上に鶏の胸肉、そして一緒にポテト、ニンニクを入れる。約30分蒸して出来上がりだ。

鶏肉にはステーキソースをかけて食べるがヘルシーで美味しい。サラダはこれまた簡単でトマト、胡瓜、そしてパックの葉っぱを入れるだけだ。それを黒酢で食べる。

赤ワインで食べたが自分としては美味しかったが人様にはご馳走する料理ではないと自覚している。悦子は美味しいと食べてくれた。

後片付けも悦子がシャワーに行っている間にやっておいた。長い間賄いをやってくれたので気持ちだけのお礼をした。

正田さんからメールがありアテネでは翔君を連れて市内を観光してこれから搭乗との連

絡をもらう。感謝する。

彼らのイスタンブールでの乗り継ぎ時間の 24 時過ぎに就寝する。